

(様式1)

令和4年度 業務実績等報告書

(第3期中期計画・第3事業年度)

令和5年6月



地域の明日を医療で支える

地方独立行政法人 **長野県立病院機構**

目 次

I 法人の概要

1 目 的	1
2 業務内容	1
3 沿 革	1
4 設立にかかる根拠法	1
5 組織図その他法人の概要	2
6 事業所の所在地	5
7 資本金の額（長野県からの出資額）	5
8 役員の氏名、役職及び任期	6
9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数	7

II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

1 法人全体	
1-1 評定一覧	8
1-2 総合評価	9
1-3 項目別評価	10
2 病院等別	
2-1 信州医療センター	30
2-2 こころの医療センター駒ヶ根	36
2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設	43
2-4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設	52
2-5 こども病院	61
2-6 信州木曽看護専門学校	70
2-7 本部事務局・本部研修センター	74
<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標	80

I 法人の概要（令和5年3月31日現在）

1 目的

長野県の医療政策として必要な地域医療、高度医療及び専門医療を提供すること等により、県民の健康の維持及び増進並びに県内医療水準の向上に寄与する。（定款第1条）

2 業務内容

当法人は、定款第1条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に関する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 災害等における医療救護を行うこと。
- (6) 地域医療を補完する介護老人保健施設の運営を行うこと。
- (7) 看護師養成所の運営を行うこと。
- (8) 上記の業務に附帯する業務を行うこと。

3 沿革

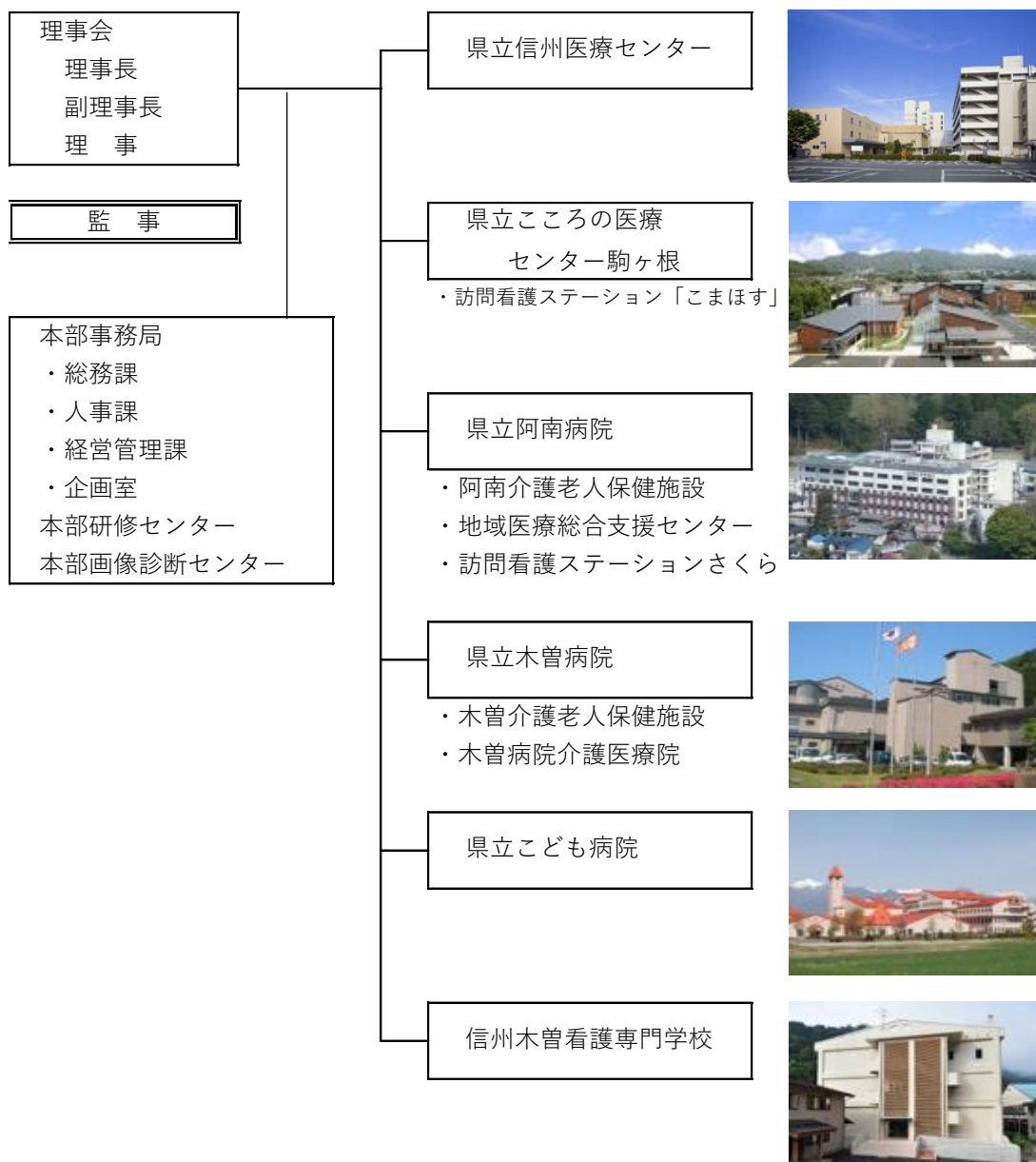
平成22年4月 地方独立行政法人長野県立病院機構発足
第一期中期計画開始
初代理事長 勝山 努 就任
平成25年4月 2代理事長 久保 恵嗣 就任
平成27年4月 第二期中期計画開始
令和2年4月 第三期中期計画開始
令和4年4月 3代理事長 本田 孝行 就任

4 設立にかかる根拠法

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）

5 組織図その他法人の概要

〈地方独立行政法人長野県立病院機構組織図〉



県立病院の概況

令和5年3月31日現在

区分	信州医療センター (一般)	こころの医療センター 駒ヶ根(精神)		阿南病院 (一般)	訪問看護ステーション 「こまほす」	阿南介護老人保健施設	木曽病院 (一般)	木曽病院介護医療院	木曽介護老人保健施設	こども病院 (小児専門)
		所在地	開設許可							
所在地	須坂市	駒ヶ根市	同左	阿南町	同左	同左	木曽町	同左	同左	安曇野市
開設許可	S23.6.1	S31.7.16		S23.6.1			S38.9.12			H4.3.31
診療開始年月日	同上	S31.9.15	R4.8.1	同上	R2.4.1	H6.5.30	S39.4.20	R2.3.1	H7.5.15	H5.5.28
診療科目等	内科 脳神経内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 感染症内科 血液内科 小児科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 呼吸器外科 血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 麻酔科 リハビリテーション科 精神科 病理診断科 救急科	精神科		内科 精神科 小児科 外科 整形外科 皮膚科 泌尿器科 婦人科 眼科 リハビリテーション科 放射線科 麻酔科		施設 サビース (入所) 居宅 サビース (短期入所療養介護・通所リハビリテーション・介護予防短期入所療養介護・介護予防通所リハビリテーション)	内科 精神科 神経内科 消化器内科 循環器内科 小児科 外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 麻酔科	施設 サビース (入所) 居宅 サビース (短期入所療養介護)	施設 サビース (入所) 居宅 サビース (短期入所療養介護・通所リハビリテーション・介護予防短期入所療養介護・介護予防通所リハビリテーション)	小児科 麻酔科 産科 循環器小児科 心臓血管外科 神経小児科 小児外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 放射線科 リハビリテーション科 精神科 眼科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 皮膚科 アレルギー科
病棟別許可病床数	一般	292床		85床		(定員)入所50人 通所10人	174床	(定員)入所20人	(定員)入所50人 通所10人	200床
	結核	24床								
	感染症	4床					4床			
	精神療養		129床				19床			
	計	320床	129床		85床		197床			200床
運用病床数	292床	129床		70床			149床			163床
職員数	医師	40人	14人	8人			25人			70人
	研修医	9人								33人
	看護師	251人	100人	55人		3人	130人	6人		302人
	その他	106人	48人	37人		13人	89人	16人		103人
	計	406人	162人	100人		16人	244人	22人		508人

〈県立病院の概要〉

- ・信州医療センター：須高地域の中核病院、県内感染症対策の専門病院、医師の養成機関
- ・こころの医療センター駒ヶ根：本県における精神科の中核病院
- ・阿南病院：下伊那南部の医療を担う、へき地医療拠点病院
- ・木曾病院：地域完結型のセンター的役割を担う木曾地域唯一の病院
- ・こども病院：一般の医療機関では対応困難な高度小児医療等を行う紹介型病院、県の総合周産期母子医療センター

〈訪問看護事業所の概要〉

利用者が可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、その療養生活を支援し、心身の機能の維持回復及び生活機能の維持または向上を図ることを目的に運営を行っている。

- ・名 称：長野県立こころの医療センター駒ヶ根訪問看護ステーション「こまほす」、長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら

〈介護医療院の概要〉

「医療を必要とする要介護者の長期療養・生活施設」として、看護師や介護福祉士が常駐し、医学的管理下で看護、介護、機能訓練や日常生活の世話等を行い、能力に応じた自立した日常生活を営むことを目的に運営を行っている。

- ・名 称：長野県立木曾病院介護医療院

〈介護老人保健施設の概要〉

平成12年度から介護保険法による介護老人保健施設となり、要介護者に対し施設サービス計画に基づく、ア 医学的管理下での看護・介護、イ 機能訓練等の必要な医療、ウ 栄養管理、食事・入浴などの日常生活のサービスを行うことを目的に運営を行っている。

入所対象者は、病状が安定期にあって、ア～ウのサービスを必要とする要介護者であり、施設では、在宅の生活への復帰を目指したサービスを提供している。

- ・名 称：長野県阿南介護老人保健施設、長野県木曾介護老人保健施設

〈看護師養成所の概要〉

人々の生命と暮らしのありのままを理解することのできる幅広い視野を育み、看護に必要な知識・技術・態度を身に付け、保健・医療・福祉の領域において貢献し得る看護実践者の育成を目的に運営を行っている。

- ・名 称：信州木曾看護専門学校
- ・課 程：医療専門課程 看護学科3年課程
- ・修業年限：3年
- ・入学定員：1学年30人（総定員90人）
- ・設置年月日：平成26年4月1日

6 事業所の所在地

【本部】

本部事務局 : 長野市大字南長野字幅下692-2
本部研修センター : 須坂市大字須坂1332 信州医療センター内

【病院】

長野県立信州医療センター : 須坂市大字須坂1332
長野県立こころの医療センター駒ヶ根 : 駒ヶ根市下平2901
長野県立阿南病院 : 下伊那郡阿南町北條2009-1
長野県立木曽病院 : 木曽郡木曽町福島6613-4
長野県立こども病院 : 安曇野市豊科3100

【訪問看護事業所】

長野県立こころの医療センター駒ヶ根訪問看護ステーション「こまほす」: 駒ヶ根市下平2901
長野県立阿南病院訪問看護ステーションさくら : 下伊那郡阿南町北條2009-1

【介護医療院】

長野県立木曽病院介護医療院 : 木曽郡木曽町福島6613-4

【介護老人保健施設】

長野県阿南介護老人保健施設 : 下伊那郡阿南町北條2009-1
長野県木曽介護老人保健施設 : 木曽郡木曽町福島6613-4

【看護師養成所】

信州木曽看護専門学校 : 木曽郡木曽町新開4236

7 資本金の額（長野県からの出資額）

305,621,763円（令和5年3月31日現在）※前事業年度末からの増減なし

8 役員の氏名、役職及び任期

職名	氏名	任期	備考
理事長	ホン ダ タカ ユキ 本 田 孝 行	令和4年4月1日 ～令和8年3月31日	
副理事長	シマ ダ ノブ ユキ 島 田 伸 之	令和4年4月1日 ～令和8年3月31日	
理事	テラ ダ マサル 寺 田 克	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	信州医療センター院長
	ハニ ハラ トキ ジ 埴 原 秋 児	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	こころの医療センター駒ヶ根院長
	タ ナカ マサ ト 田 中 雅 人	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	阿南病院長
	ハマ ノ ヒデ アキ 濱 野 英 明	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	木曽病院長
	ナカ ムラ トモ ヒコ 中 村 友 彦	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	こども病院長
	ハラ ダ ヨリ カズ 原 田 順 和	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日	改革統括医療監
	シマ ザキ ケン ジ 島 崎 謙 治	令和2年6月1日 ～令和6年5月31日	国際医療福祉大学大学院教授
	ミ ワ ユ リ コ 三 輪 百 合 子	令和4年4月1日 ～令和6年3月31日	長野県看護連盟会長
監事	ヤナギサワ イサム 柳 澤 勇	平成30年4月1日 ～令和4年6月28日	元 株式会社八十二銀行大阪支店長
	ヤマ ナカ タカシ 山 中 崇	平成30年4月1日 ～令和4年6月28日	公認会計士
	ゴ ミョウイサオ 五 明 勲	令和4年7月20日 ～令和7年度の財務諸表の 承認の日	長野県銀行協会常務理事
	ノ モト ヒロ ユキ 野 本 博 之	令和4年7月20日 ～令和7年度の財務諸表の 承認の日	公認会計士

9 常勤職員の数及び県からの派遣職員等の数

(人)

区 分	R5年3月31日		R4年3月31日		対前年度 増減(a-b)	
	職員数 a		職員数 b		職員数	うち県派遣
		うち県派遣		うち県派遣		
医 師	202	14	196	15	6	△ 1
看 護 師	863		850		13	0
薬 剤 師	50	2	44	2	6	0
診 療 放 射 線 技 師	29		29		0	0
臨 床 検 査 技 師	42		42		0	0
管 理 栄 養 士	16		16		0	0
作 業 療 法 士	24		22		2	0
理 学 療 法 士	47		46		1	0
臨 床 工 学 技 士	18		18		0	0
言 語 聴 覚 士	8		8		0	0
視 能 訓 練 士	3		4		△ 1	0
保 健 師	1		1		0	0
臨 床 心 理 技 師	10		9		1	0
歯 科 衛 生 士	1		1		0	0
介 護 支 援 専 門 員					0	0
介 護 福 祉 員	29		30		△ 1	0
精 神 保 健 福 祉 士	10		10		0	0
福 祉 相 談 員	13	1	12	1	1	0
事 務 (技 術) 職 員	135	14	134	17	1	△ 3
診 療 情 報 管 理 士					0	0
計	1,501	31	1,472	35	29	△ 4

※ 有期雇用職員（再雇用職員、特定期限付職員、期間限定雇用職員（産育休職員の代替として雇用されている職員は除く）、有期常勤職員（研修医のみ））を含む。

II 業務実績及び業務実績に係る自己評価

1 法人全体

1-1 総合評価

○総合評価

自己評定
B

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（対年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（対年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を概ね達成している（対年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を下回っており、改善を要する（対年度計画値の60%以上80%未満）
D	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（対年度計画値の60%未満）

	自己評定
大項目1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	B
小項目1-1 県立病院が担うべき医療等の提供	B
細項目1-1-1 地域医療の提供	B
細項目1-1-2 高度・専門医療の提供	A
細項目1-1-3 災害医療等の提供	B
細項目1-1-4 認知症の専門医療の提供	B
細項目1-1-5 介護サービスの提供	B
小項目1-2 地域連携の推進	B
細項目1-2-1 地域医療構想への対応	B
細項目1-2-2 地域包括ケアシステムの推進	B
細項目1-2-3 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	B
小項目1-3 医療従事者の養成と専門性の向上	B
細項目1-3-1 県内医療に貢献する医師の確保・養成	B
細項目1-3-2 機構職員の養成	B
細項目1-3-3 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	A
細項目1-3-4 信州木曾看護専門学校の運営	A
小項目1-4 医療の質の向上に関すること	B
細項目1-4-1 より安全で信頼できる医療の提供	B
細項目1-4-2 医療等サービスの一層の向上	B
細項目1-4-3 先端技術の活用	B
細項目1-4-4 信州大学等との連携	B
細項目1-4-5 医療に関する研究及び調査の推進	A

大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	B
小項目2-1 業務運営体制の強化	B
小項目2-2 働き方改革への対応	B
小項目2-3 職員の勤務環境の向上	B

大項目3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	B
小項目3-1 経常黒字の維持	A
小項目3-2 経営基盤の強化	B
細項目3-2-1 収益の確保	B
細項目3-2-2 費用の抑制	B

大項目4 その他の業務運営に関する事項	B
小項目4-1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	B
小項目4-2 施設整備及び医療機器に関する事項	B
小項目4-3 中期計画の見直しに関する事項	B

<p>総合評価 自己評定</p>	<p>B</p>
<p>【総評】</p> <p>大項目の自己評定ですべてB評定としたことから、総合評価の自己評定について、B評定とした。</p>	
<p>【今後の課題と方針】</p> <p>令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症への積極的な対応を行った結果、病床確保料等の補助金もあったことから経常黒字を達成した。今後は、コロナ禍の収束を見据えて、少子高齢化や受診行動の変化など急速な外部環境の変化に対応しながら、県立病院の医療資源を最大限に活用し、県等関係機関と連携して、県民の求める医療ニーズに応えるとともに、引き続き経営の安定化に努める。</p>	

1 - 3 項目別評価

実績及び自己評価 (S A B C D)

大項目 1	
県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	
自己評価	B
<p>(中期計画)</p> <p>病院機構は、患者中心の安全で安心な医療を提供するため、常に医療機関としての機能向上に努め、県民の健康の維持及び増進に寄与する。</p> <p>また、医療機関を含め地域との連携を図るとともに、医療人材の養成を通して県内の医療水準の向上を図る。</p>	
<p>【総評】</p> <p>大項目の自己評価は、小項目がすべてB評価であったことから、B評価とした。</p>	
<p>【今後の課題と方針】</p> <p>少子高齢化や受診行動の変化など急速な外部環境の変化に的確に対応しながら、人材育成と外部との連携を強化して、引き続き質の高い医療を効率的に提供する。</p>	

小項目 1 - 1 県立病院が担うべき医療等の提供	B																														
<p><細項目 1 - 1 - 1>地域医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別評価においてS評価が2項目、A評価が13項目、B評価が8項目、C評価が1項目、D評価が1項目であったことから、B評価とした。 <p>ア 地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 各病院は、救急患者の受入れや手術を始めとして地域で求められる医療を提供した。 <p>【救急患者数及び手術件数】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">病院名</th> <th style="width: 15%;">(時間外) 救急患者数</th> <th style="width: 15%;">前年度実績</th> <th style="width: 15%;">手術件数</th> <th style="width: 15%;">前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td style="text-align: center;">7,739 件</td> <td style="text-align: center;">5,747 件</td> <td style="text-align: center;">1,697 件</td> <td style="text-align: center;">1,600 件</td> </tr> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td style="text-align: center;">169 件</td> <td style="text-align: center;">226 件</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td style="text-align: center;">1,254 件</td> <td style="text-align: center;">1,019 件</td> <td style="text-align: center;">88 件</td> <td style="text-align: center;">86 件</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td style="text-align: center;">3,398 件</td> <td style="text-align: center;">3,284 件</td> <td style="text-align: center;">457 件</td> <td style="text-align: center;">686 件</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td style="text-align: center;">3,462 件</td> <td style="text-align: center;">3,447 件</td> <td style="text-align: center;">1,583 件</td> <td style="text-align: center;">1,667 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・救急患者、手術件数ともに新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年度と比較して増加傾向であった。</p> <p>【在宅医療件数 (訪問診療・訪問看護・訪問リハ)】</p>	病院名	(時間外) 救急患者数	前年度実績	手術件数	前年度実績	信州医療センター	7,739 件	5,747 件	1,697 件	1,600 件	こころの医療センター駒ヶ根	169 件	226 件	-	-	阿南病院	1,254 件	1,019 件	88 件	86 件	木曽病院	3,398 件	3,284 件	457 件	686 件	こども病院	3,462 件	3,447 件	1,583 件	1,667 件	B
病院名	(時間外) 救急患者数	前年度実績	手術件数	前年度実績																											
信州医療センター	7,739 件	5,747 件	1,697 件	1,600 件																											
こころの医療センター駒ヶ根	169 件	226 件	-	-																											
阿南病院	1,254 件	1,019 件	88 件	86 件																											
木曽病院	3,398 件	3,284 件	457 件	686 件																											
こども病院	3,462 件	3,447 件	1,583 件	1,667 件																											

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	7,864件	8,265件	95.1%	8,276件	95.0%
こころの医療センター駒ヶ根	2,282件	2,057件	110.9%	1,796件	127.1%
阿南病院	3,632件	4,005件	90.7%	4,035件	90.0%
木曽病院	4,618件	5,550件	83.2%	5,840件	79.1%
こども病院	51件	60件	85.0%	44件	115.9%

・在宅医療においては、概ね年度計画を達成した。

【分娩件数】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	253件	250件	101.2%	256	98.8%
木曽病院	78件	80件	97.5%	75	104.0%
こども病院	312件	300件	104.0%	293	106.5%

・各病院で、新型コロナウイルス感染拡大による影響から回復傾向となり、年度計画を概ね達成した。

イ へき地医療

・阿南病院及び木曽病院は、無医地区への巡回診療や診療所への医師派遣、放射線機器の共同利用等を実施し、へき地における医療を提供した。

【巡回診療実施体制】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
阿南病院	25回	26回	96.2%	26回	96.2%
	延べ72人	延べ75人	96.0%	延べ74人	97.3%
木曽病院	18回	24回	75.0%	19回	94.5%
	延べ18人	延べ48人	37.5%	延べ32人	56.3%

・阿南病院は概ね年度計画どおり。木曽病院は、対象患者の入院や施設入所により患者数が減少したことにより計画を下回った。

<細項目1-1-2>高度・専門医療の提供

・個別評価においてS評価が4項目、A評価が18項目、B評価が2項目であったことから、A評価とした。

ア 感染症医療（新型コロナウイルス感染症対応を含む）

・各病院は、新型コロナウイルス感染者等を積極的に受け入れ、感染拡大に対応した適切な医療の提供を行った。また、市町村等と協力し、住民等へのワクチン接種を実施した。

【感染者等受入数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	332人	210人	158.1%
こころの医療センター駒ヶ根	12人	13人	92.3%

A

阿南病院	48人	49人	98.0%
木曽病院	110人	34人	323.5%
こども病院	55人	3人	1,833.3%

【検査件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	31,625件	13,691件	231.0%
こころの医療センター駒ヶ根	1,188件	224件	530.4%
阿南病院	4,518件	1,582件	285.6%
木曽病院	5,882件	5,331件	110.4%
こども病院	3,124件	1,082件	288.7%

【発熱外来受入件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	9,383人	4,620人	203.1%
阿南病院	2,323人	515人	451.1%
木曽病院	3,424人	2,298人	149.0%

【ワクチン接種件数】

病院名	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	3,396件	5,072件	67.0%
こころの医療センター駒ヶ根	689件	1,523件	45.2%
阿南病院	4,599件	8,661件	53.1%
木曽病院	947件	2,646件	35.8%
こども病院	1,148件	1,864件	61.6%

- ・信州医療センターは、地域包括ケア病棟の転用による受入体制整備、海外渡航者に対するワクチン接種、渡航前PCR検査と結果証明書の発行等を実施した。また、感染症病棟実施訓練を実施し、集団発生等へ備えた。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、県からの要請により精神疾患を有する感染者の入院受入体制を確保し、即応病床増床要請に対応した。
- ・阿南病院は、急増した発熱外来受診者に対応し、休日検査を実施した。またクラスターが発生した周辺介護施設等に感染管理認定看護師を派遣した。
- ・木曽病院は、発熱外来・自費検査を継続して実施した。また、オンライン面会を活用し、入院患者の面会機会を確保した。
- ・こども病院は、安曇野赤十字病院の要請を受けて、8月に臨時の発熱外来を開設した。また、院外の施設等（加算連携の2施設、成人の精神科施設、養護学校、医療福祉施設、乳児院、県からの指導依頼など）からのCOVID-19感染対策等の依頼にすべて応え、研修会の実施や相談対応を行った。

イ 精神医療

こころの医療センター駒ヶ根は、以下のとおり、県の精神科医療の中核病院として、専門医療を提供し、概ね年度計画を達成した。

<ul style="list-style-type: none"> ・精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設した。 ・インターネット・ゲーム依存症治療について、先進病院の取組みを参考に、令和2年度から試験的に患者の受入れを行い、治療評価後、病院独自の治療の枠組みを確立させ、県内で初めて令和4年4月から家族向けの学習プログラムを開始した。 ・依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）の参加家族は12人、対象患者は10例となり、うち6例が就職や依存症プログラムへ参加するなど、依存症問題の解消に繋がった。 ・「治療抵抗性うつ病」の患者に対し、薬物療法ではない新たな治療の選択肢として、侵襲性の低い治療法となるrTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）を7月から開始した。 ・開設予定である「子どものこころ総合医療センター」の基本計画を策定した。計画には、現状や課題、ニーズを整理し「専門医療、次世代型デイケア、人材育成、支援者支援」の4つの柱を掲げ、センターに必要な入院・外来、その他機能や部門別計画、収支計画を盛り込んだ。 <p>ウ 高度小児医療、周産期医療</p> <p>こども病院は、以下のとおり、県における高度小児医療・総合周産期医療を担う病院として、専門医療を提供し、概ね年度計画を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施した。 ・児童精神科の常勤医師着任に伴い、外来診療やリエゾン体制等を整備し、多職種連携・チーム医療を推進し、院内外の児童精神科充実のニーズに対応した。 ・「アレルギー疾患医療拠点病院」の責務として重症・難治性アレルギー疾患患者の診療（アレルギー科として）、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施した。 ・日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学医学部附属病院と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援した。 ・小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるため病院全体でサポートする体制を構築。移行期医療支援外来を毎月4枠に増枠（前年度3枠）し、31件の支援を実施した。 ・成育女性科外来、あたまの形外来について、認知度が向上し、新規患者が増加した。 <p>エ がん医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州医療センターは、ピロリ菌抗体測定検査について積極的広報を実施し、検査件数が増加した。 ・木曽病院は、歯科口腔外科の診療を週1回から週2回とし、診療機能を充実させた。 ・こども病院は、小児がんセンターを開設し、長野県の小児がん連携病院として院内の小児がん診療体制を整備した。 	
<p><細項目1-1-3>災害医療等の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評価が4項目、B評価が1項目であったことから、B評価とした。 ・こころの医療センター駒ヶ根は、DPAT（災害派遣精神医療チーム）の登録機関として、各研修に参加し資格取得と研鑽に務めるとともに令和4年10月には長野県総合防災訓練に参加した。 	B

	<ul style="list-style-type: none"> 木曽病院は、松本市で開催された県総合防災訓練に1チームが参加した。また、災害拠点病院としての機能強化のため電子カルテデータの遠隔及び静的バックアップの仕組みを整備した。 																																																								
	<p><細項目1-1-4>認知症の専門医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別評価においてA評価が2項目、C評価が1項目であったことから、B評価とした。 こころの医療センター駒ヶ根は、認知症疾患医療センターにおいて、地元市町村、関係機関等と連携し、認知症に関する専門医療・専門相談を提供した。 <p>【こころの医療センター駒ヶ根 専門医療相談等実績】</p> <table border="1" data-bbox="264 595 1329 1059"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">専門医療相談</td> <td>電話</td> <td>753件</td> <td>1,198件</td> <td>62.9%</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>488件</td> <td>515件</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,241件</td> <td>1,713件</td> <td>72.4%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">もの忘れ外来件数</td> <td>1,700件</td> <td>1,903件</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">うち鑑別診断</td> <td>104件</td> <td>124件</td> <td>83.9%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ラウンド件数（延べ実施数）</td> <td>143件</td> <td>113件</td> <td>126.5%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">訪問支援（延べ件数）</td> <td>17件</td> <td>25件</td> <td>68.0%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ピア活動（認知症カフェ等参画）</td> <td>32件</td> <td>31件</td> <td>103.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>阿南病院は、認知症看護認定看護師の配置を継続し相談体制を維持した。また、院内デイサービスを実施し、運営には認知症看護認定看護師が関わることで、入院患者の生活の質の維持に努めた。</p> <p>【阿南病院相談業務等実績】</p> <table border="1" data-bbox="264 1339 1390 1509"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談業務（院外）</td> <td>118件</td> <td>112件</td> <td>105.4%</td> </tr> <tr> <td>認知症デイサービス</td> <td>700人 (218日)</td> <td>633人 (212日)</td> <td>110.6% (102.8%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>木曽病院は、令和4年4月1日に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センターの活動を開始した。</p>	項目		実績	前年度実績	対前年度比	専門医療相談	電話	753件	1,198件	62.9%	面接	488件	515件	94.8%	計	1,241件	1,713件	72.4%	もの忘れ外来件数		1,700件	1,903件	89.3%	うち鑑別診断		104件	124件	83.9%	ラウンド件数（延べ実施数）		143件	113件	126.5%	訪問支援（延べ件数）		17件	25件	68.0%	ピア活動（認知症カフェ等参画）		32件	31件	103.2%	項目	実績	前年度実績	対前年度比	相談業務（院外）	118件	112件	105.4%	認知症デイサービス	700人 (218日)	633人 (212日)	110.6% (102.8%)	B
項目		実績	前年度実績	対前年度比																																																					
専門医療相談	電話	753件	1,198件	62.9%																																																					
	面接	488件	515件	94.8%																																																					
	計	1,241件	1,713件	72.4%																																																					
もの忘れ外来件数		1,700件	1,903件	89.3%																																																					
うち鑑別診断		104件	124件	83.9%																																																					
ラウンド件数（延べ実施数）		143件	113件	126.5%																																																					
訪問支援（延べ件数）		17件	25件	68.0%																																																					
ピア活動（認知症カフェ等参画）		32件	31件	103.2%																																																					
項目	実績	前年度実績	対前年度比																																																						
相談業務（院外）	118件	112件	105.4%																																																						
認知症デイサービス	700人 (218日)	633人 (212日)	110.6% (102.8%)																																																						
	<p><細項目1-1-5>介護サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別評価においてA評価が2項目、B評価が3項目であったことから、B評価とした。 阿南介護老人保健施設、木曽介護老人保健施設は在宅復帰に重点を置いたサービスを提供した。 阿南病院は、訪問看護ステーションの運営を行い、在宅医療・介護サービスを提供した。 木曽病院は、介護医療院の運営を行い、個々の状況に応じた生活支援を行った。 <p>【阿南介護老人保健施設利用実績】</p>	B																																																							

	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	14,322人	14,600人	98.1%	13,969人	102.5%
入所単価	11,407円	10,903円	104.6%	11,018円	103.5%

・在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、「在宅超強化型」の単位数を年間通して算定できた。加えて科学的介護推進システム（LIFE）へのデータ提出により「栄養マネジメント強化加算」「通所リハマネジメント加算」「科学的介護推進体制加算」を算定することにより、入所単価が向上した。

【阿南病院訪問看護ステーション利用実績】

	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	2,533人	2,900人	87.3%	2,767人	91.5%

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う訪問看護の利用控えが見受けられ、利用者数が減少した。

【木曾介護老人保健施設利用実績】

	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	15,648人	15,519人	101.0%	15,684人	99.8%
入所単価	14,013円	11,985円	116.9%	13,036円	107.5%

・在宅復帰に向けた多職種による居宅訪問やサービスの充実を図り、在宅超強化型の施設基準取得及び維持を行い、入所単価が増加した。

【木曾病院介護医療院利用実績】

	実績	前年度実績	対前年度比
利用者数	5,889人	6,449人	91.3%

・木曾病院介護医療院は、入所者のニーズを把握し、多職種との連携を強化。個々の状況に応じた生活支援を行ったが、長期利用者の退所等で利用者数減となった。

今後の課題と方針

引き続き、県立病院に求められるかつ、担うべき医療の提供に努める。

小項目 1 - 2 地域連携の推進

B

<細項目 1 - 2 - 1> 地域医療構想への対応

- ・個別評価においてA評価が3項目、B評価が1項目であったことから、B評価とした。
- ・信州医療センター、阿南病院、木曾病院は、各圏域の地域医療構想調整会議に参加し、地域の医療提供体制等について議論を通して検討した。

【地域包括ケア病床の利用実績】

病院名	区分	実績	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	延患者数（人） （退院患者を含む）	7,717人	12,486人	61.8%
	診療単価（円）	35,761円	32,223円	111.0%
	利用率（%）	40.6%	67.1%	△26.5ppt
阿南病院	延患者数（人）	3,975人	3,657人	108.7%

B

	(退院患者を含む)			
	診療単価 (円)	36,834 円	34,905 円	105.5%
	利用率 (%)	64.5%	59.3%	5.2ppt
木曽病院	延患者数 (人)	9,581 人	9,694 人	98.8%
	(退院患者を含む)			
	診療単価 (円)	38,407 円	37,569 円	102.2%
	利用率 (%)	50.9%	51.2%	△0.3ppt

- ・信州医療センターは、県の要請により地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス専用病棟に転用し、即応病床を確保したため、延患者数及び利用率が減少した。

<細項目 1-2-2>地域包括ケアシステムの推進

- ・個別評価においてA評価が6項目、B評価が3項目、C評価が1項目であったことから、B評価とした。

- ・各病院は、紹介、逆紹介を通じて地域の医療機関等との連携を推進した。

【紹介率及び逆紹介率】

病院名	項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州	紹介率	24.5%	31.0%	△6.5ppt	28.4%	△3.9ppt
	逆紹介率	26.7%	28.0%	△1.3ppt	26.8%	△0.1ppt
駒ヶ根	紹介率	38.5%	55.0%	△16.5ppt	49.3%	△10.8ppt
	逆紹介率	38.2%	40.0%	△1.8ppt	44.6%	△6.4ppt
阿南	紹介率	26.2%	20.0%	6.2ppt	34.2%	△8.0ppt
	逆紹介率	21.7%	15.0%	6.7ppt	22.4%	△0.7ppt
木曽	紹介率	17.0%	16.0%	1.0ppt	17.0%	0.0ppt
	逆紹介率	30.0%	26.0%	4.0ppt	31.0%	1.0ppt
こども	紹介率	74.6%	71.0%	3.6ppt	69.0%	5.6ppt
	逆紹介率	84.4%	78.0%	6.4ppt	78.6%	5.8ppt

B

- ・信州医療センターは、地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス専用病棟に転用し、即応病床を確保した。地域の病院と連携と連携し、地域包括ケア病床の役割を当該病院に担っていただくなど、地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応した。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設した。
- ・阿南病院は、認定看護師などの資格を有した看護師等を介護施設への派遣、訪問看護に出向くなど、積極的な地域支援を実施した。
- ・木曽病院は、在宅療養支援病院として24時間往診（医師）と訪問看護の体制を確保し、緊急時の迅速な対応を実施した。
- ・こども病院は、小児疾患動向の変化や地域からこども病院に期待される診療ニーズ等を踏まえ、更なる診療・ケアの質向上を図るため、病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成・集約化を実施した。また、病院将来構想検討を進めるため患者及び家族との座談会を開催した。

	<p><細項目1-2-3>地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別評価においてA評価が6項目、B評価が3項目であったことから、B評価とした。 信州医療センターは、近隣市町村及び医療関係機関との連携により、内視鏡検査を実施した。 <p>【内視鏡検査件数】</p> <table border="1" data-bbox="264 394 1385 533"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>実績</th> <th>年度計画</th> <th>対計画比</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>6,836件</td> <td>8,000件</td> <td>85.5%</td> <td>6,657件</td> <td>102.7%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 人間ドック受け入れ制限はせず、COVID-19感染対策を継続しながら受診者数を伸ばした。また、対策型胃内視鏡検診においても6月から実施したため、前年度より件数が増加した。 こころの医療センター駒ヶ根は、児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し、自殺企図児童や児童虐待、摂食障害などの緊急入院に対応した。 <table border="1" data-bbox="264 775 1254 945"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>前年度実績</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規入院患者数</td> <td>50人</td> <td>45人</td> <td>111.1%</td> </tr> <tr> <td>うち緊急・優先入院</td> <td>21人</td> <td>6人</td> <td>350.0%</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比	信州医療センター	6,836件	8,000件	85.5%	6,657件	102.7%	項目	実績	前年度実績	対前年度比	新規入院患者数	50人	45人	111.1%	うち緊急・優先入院	21人	6人	350.0%	B
病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比																					
信州医療センター	6,836件	8,000件	85.5%	6,657件	102.7%																					
項目	実績	前年度実績	対前年度比																							
新規入院患者数	50人	45人	111.1%																							
うち緊急・優先入院	21人	6人	350.0%																							
今後の課題と方針																										
内視鏡検査件数について、前年度に引き続き検査件数の確保が課題であり、検査件数の確保に努める。																										
小項目1-3 医療従事者の養成と専門性の向上	<p><細項目1-3-1>県内医療に貢献する医師の確保・養成</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別評価においてA評価が8項目、C評価が1項目であったことから、B評価とした。 信州医療センターは、開設した総合内科医育成学講座(寄附講座)に関する協定により、信州大学から担当教員(内科系)2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手しているが、日本専門医機構が認定するサブスペシャリティ領域に総合内科が認定されていないため、事業の進捗が遅れている。総合診療医の養成については、機構の他病院とも連携し、引き続き取り組む。 こころの医療センター駒ヶ根は、児童・思春期、青年期精神科医療の医師育成を行うため、「子どものこころ専門医研修施設群」の基幹施設として認定。小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とする「子どものこころ専門医」を養成するため、県立こども病院、信州大学子どものこころ診療部と連携した運営を開始した。 本部研修センターは、信州医療センターが受け入れた医学生及び初期研修医に対し、シミュレーション教育を実施した。また、医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーをweb開催した。 	B																								

<細項目 1-3-2> 機構職員の養成

- ・個別評価においてA評価が8項目、B評価が2項目であったことから、B評価とした。
- ・信州医療センターは、指定研修機関として、看護師特定行為研修を開講した。今期からは機構外部からの公募も開始し、機構以外の看護師3名が受講している。
- ・本部研修センターは、シミュレーション教育指導者委員会を開催し、指導者の連携のため意見交換・情報交換を行った。また、各種職員研修を集合研修とオンライン研修を組み合わせ実施し、延べ 840 人が受講した。

B

<細項目 1-3-3> 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献

- ・個別評価においてS評価が1項目、A評価が9項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。
- ・信州医療センターは、感染症センターによる研修会の開催、新型コロナウイルス感染症に関する講演会等を実施した。
- ・こころの医療センター駒ヶ根は、精神科研修・研究センターで、県内の医療従事者、一般向けに各種講座をオンラインで実施した。また、ゲーム障害等の出前講座を11回開催した。
- ・こども病院は、長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曾看護専門学校、須坂看護専門学校、長野県、各市町村、各教育委員会、小学校、保育園等に小児、産科、アレルギー他に係る講師として、Webの利用や現地への派遣により講義を行った。
- ・本部研修センターは、長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会を設立し、第1回目の研究発表会を開催した。また、機構外機関も対象としたシミュレーション研修や病院・学校・福祉施設等への講師派遣による研修を実施した。信州医療センターの院外広報誌に「研修センターの紹介」を掲載し、スキルラボ及びシミュレータの利用促進を図った。

A

<細項目 1-3-4> 信州木曾看護専門学校の運営

- ・個別評価においてA評価が4項目であったことから、A評価とした。
- ・入学生確保のため、オープンキャンパスの回数増、SNSによる情報発信、新聞広告及び出前講座の実施等による認知度の向上を行った。
- ・令和4年度の卒業生の国家試験合格率は100%に達し、就職者のうち82%が県内病院に就職し、地域の医療人材の育成に貢献した。

【看護師国家試験の状況】

受験者数	合格者数	合格率	合格率(全国)
28人	28人	100.0%	90.8%

【卒業生の進路】

就 職					進 学
県 内 (うち機構病院8人)				県 外	
	南信州	木 曾	松 本	その他県内	
23人	8人	5人	7人	3人	4人

【入学選考状況】

項 目	実績	前年度実績	対前年度比
受 験	39人	51人	76.4%
合 格	29人	26人	111.5%

A

入 学	23 人	21 人	109.5%		
今後の課題と方針					
医療人材の育成について、引き続き積極的に取り組んでいく。また、信州木曾看護専門学校の出願者数は減少傾向であることから、引き続き認知度の向上に取り組み、入学生の確保に努める。					
小項目 1－4 医療の質の向上に関すること					B
<p><細項目 1－4－1>より安全で信頼できる医療の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評価が 10 項目、B 評価が 1 項目であったことから、B 評価とした。 ・5 病院を各病院の医療安全管理者等で点検、評価を実施。再点検項目については、点検、評価を行った病院において、すべて改善した。 ・コロナ禍で中止していた医療安全管理者研修について、職員間のコミュニケーションをテーマとして Web 方式で開催した。 					B
<p><細項目 1－4－2>医療等サービスの一層の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評価が 11 項目、B 評価が 1 項目であったことから、B 評価とした。 ・信州医療センターは、自動精算機の導入を検討したが、新型コロナウイルス感染症による受診者増に対応するため、導入を次年度以降に延期した。 ・阿南病院は、個室病室 1 室をトイレ、シャワー付きに改修し、患者のニーズに対応した入院環境を整えた。 ・木曾病院は、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づくリビングウィル（事前指示書）について、患者サポートセンター内に相談窓口を設置、ポスター掲示、パンフレットの設置等の広報に合わせ看護協会木曾支部、木曾広域連合在宅医療介護支援センターと共催し、介護スタッフ向け研修会等を開催した。また、電子カルテ更新に併せて、番号案内表示システムと自動精算機を導入し、5 月 1 日から稼働した。 ・こども病院は、患者サポートセンターの取組を推進し、上半期に脳神経外科、泌尿器科、整形外科、下半期に耳鼻科、循環器科（心臓カテーテル検査）で新規介入を開始。10 月より側弯症手術の入退院支援も開始した。 					B
<p><細項目 1－4－3>先端技術の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評価が 4 項目、B 評価が 1 項目であったことから、B 評価とした。 ・信州医療センターは、外来の一部診療科でタブレットによる AI 問診サポートを継続し、医師、看護師における問診時間の削減、カルテ記載業務の大幅な効率化、患者との対話時間の増加及び診療待ち時間短縮による患者満足度の向上を図った。 ・阿南病院は、売木村診療所にいる患者を病院にいる医師が診るオンライン診療を開始した。 ・木曾病院は、外来診療（内科）において AI 問診サポートを活用した。 ・こども病院は、1 月から形成外科でオンライン診療を開始した。 					B

<p><細項目 1-4-4>信州大学等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評価が2項目、B評価が2項目、C評価が1項目であったことから、B評価とした。 ・こころの医療センター駒ヶ根は、連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る研究を実施した。児童精神科医師が子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議に参加し、全国の実践について情報収集を行った。 ・こども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者を養成した。 	B
<p><細項目 1-4-5>医療に関する研究及び調査の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてS評価が1項目、A評価が6項目、B評価が1項目であったことから、A評価とした。 ・本部事務局は、機構年報を1月に発行した。 ・こども病院は、AMED、厚労科研、文部科研、民間研究資金等の外部資金による13研究課題を実施した。また、生命科学研究センターで文部科研に4研究課題の申請をし、1課題が採択された。また、長野県立こども病院医学雑誌第5巻を刊行した。 	A
今後の課題と方針	
<p>新型コロナウイルス感染症への対応の必要性から導入が始まったオンライン診療について、活用を検討していく。</p>	

大項目 2

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

自己評定

B

(中期計画)

医療機関に適した業務運営体制の整備・効率化に努めるとともに、地方独立行政法人制度の強みを生かした柔軟性・自律性・迅速性のある病院経営を行う。

【総評】

大項目の自己評定は、小項目をすべてB評定としたため、B評定とした。

【今後の課題と方針】

医師の労働時間短縮計画の策定など勤務環境の改善を進めながら、引き続き柔軟な病院経営に努める。

小項目 2-1 業務運営体制の強化	B
<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評定が14項目、B評定が5項目であったことから、B評定とした。 ・本部事務局は、試行導入している人事評価制度について、前年度の改正点を踏まえて実施した。 ・木曾病院は、時間当り採算指標とBSCを用い、毎月のリーダー面談で課題の取組状況を確認、院長・事務部長面談により課題を共有、優良な取り組みは運営委員会で共有し、職場環境の改善を推進した。 	B
今後の課題と方針	
引き続き、医療機関に適した業務運営体制の整備・効率化に努める。	
小項目 2-2 働き方改革への対応	B
<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評定が6項目、B評定が8項目であったことから、B評定とした。 ・本部事務局は、医師の時間外労働の上限規制適用に向けての各病院の取り組みに対し、本部事務局として必要な規程改正等を行った。 ・信州医療センターは、看護補助者活用の推進に向けて、看護管理者の研修受講を計画的に進め、規定に沿って安全に業務が委託できるように全看護師の研修を行った。また、臨床検査技師、診療放射線技師及び臨床工学技士の講習費用の一部を病院で負担し、法改正で追加された新たな業務範囲を担うための研修を計画的に受講できる環境を整えた。 ・こころの医療センター駒ヶ根は、試行的に導入していた病棟部門における2交代制勤務を令和4年8月から本格導入した。 ・阿南病院は、医師事務作業補助者の業務を拡大し、非常勤医師による宿日直業務を増やすことにより医師の負担軽減を図った。さらに、訪問診療や巡回診療にモバイ 	B

ル端末を活用することにより、診療の効率化を図った。前年度より医師を派遣している売木村診療所の診療回数の増及び医師の負担軽減を図るため、オンライン診療を導入した。

- ・木曽病院は、信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直の活用、当直明け等の職務専念義務免除制度、時差出勤の導入等、医師の負担軽減を行った。
- ・こども病院は、医師の働き方改革についてコンサルタント業務を委託し、委託者を交えた診療部各科とのミーティングを行うなどして、医師労働時間短縮計画の策定及び提出の準備を行った。

【超過勤務時間（職員全体）】

病院名	項目	実績	前年度実績	対前年度比
信州	職員全体 (1人平均)	56,063時間13分 (157時間12分)	57,961時間00分 (160時間20分)	96.7% 98.3%
駒ヶ根	職員全体 (1人平均)	6,958時間40分 (45時間31分)	7,487時間42分 (51時間04分)	92.9% 89.1%
阿南	職員全体 (1人平均)	7,033時間58分 (83時間44分)	7,193時間53分 (88時間49分)	97.8% 94.3%
木曽	職員全体 (1人平均)	33,021時間28分 (144時間49分)	31,006時間49分 (134時間42分)	106.5% 107.5%
こども	職員全体 (1人平均)	85,457時間26分 (129時間40分)	75,435時間41分 (133時間59分)	113.3% 96.9%

【超過勤務時間（医師）】

病院名	項目	実績	前年度実績	対前年度比
信州	職員全体 (1人平均)	15,231時間56分 (390時間33分)	14,542時間35分 (354時間41分)	104.7% 110.1%
駒ヶ根	職員全体 (1人平均)	744時間53分 (57時間17分)	685時間20分 (58時間19分)	108.7% 98.2%
阿南	職員全体 (1人平均)	1,426時間46分 (285時間21分)	1,989時間55分 (331時間39分)	71.7% 86.0%
木曽	職員全体 (1人平均)	8,348時間12分 (362時間58分)	9,537時間05分 (412時間52分)	87.5% 87.9%
こども	職員全体 (1人平均)	49,022時間06分 (449時間44分)	39,001時間7分 (475時間37分)	125.7% 94.6%

今後の課題と方針

働き方改革への対応については、令和6年度に向けて、さらなる医師の負担軽減が課題であり、タスクシフトの推進や医師労働時間短縮計画策定等の取組を実施することで、医師の超過勤務時間の削減に努める。

小項目2-3職員の勤務環境の向上

- ・個別評価においてA評価が5項目、B評価が3項目であったことから、B評価とした。
- ・機構全体で業務の見直しや効率化を進め、また年次休暇の取得を推進するなど、働きやすい職場環境の整備に努めた。

B

B

【職員の年次有給休暇取得状況】

5日以上取得者：90.1%（令和3年：94.5%）

10日以上取得者：60.3%（令和3年：61.1%）

【看護職員離職率】

項目	実績	前年度実績	対前年度比
正規職員	7.6%	6.3%	1.3ppt
うち新卒職員	3.0%	6.1%	△3.1ppt

・新卒看護職員の離職率は前年度と比較し低下したが、正規職員の離職率は増加した。

今後の課題と方針

引き続き、働きやすい職場環境の整備に努め、業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図る。

大項目 3

予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

自己評定

B

（中期計画）

病院機構は、県立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、業務運営の改善及び効率化に取り組むとともに、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）に基づき、県からの運営負担金を確保する。

【総評】

大項目の自己評定は、小項目においてA評定が1項目、B評定が1項目であったことから、B評定とした。

【今後の課題と方針】

新型コロナウイルス感染症への積極的な対応を行った結果、経常黒字を達成した。今後も引き続き収益の確保及び費用の削減に努める。

小項目 3-1 経常黒字の維持

A

・経常黒字の維持については、経常収支比率が年度計画を達成したことから、A評価とした。

【経常収支比率】

	実績	年度計画
病院機構全体	101.8%	100.0%

【損益計算書（機構全体）】

（単位：百万円）

	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
営業収益	25,615	24,342	105.2%	25,497	100.5%
営業費用	24,540	24,338	100.8%	24,105	101.8%
営業外収益	392	437	89.7%	426	92.0%
営業外費用	995	985	101.0%	1,034	96.2%
経常利益	473	△587	—	784	60.3%
臨時利益	0	0	—	1	皆減
臨時損失	71	0	皆増	72	98.6%
純損益	402	△587	—	712	56.5%

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります

・新型コロナウイルス感染症に係る病床確保を行い、感染症医療を積極的に実施したことに伴い、約 1,617 百万円の病床確保料収入があり、機構全体の決算は約 402 百万円の純利益となった。

【医業収支比率】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	82.6%	86.3%	△3.7ppt	83.6%	△1.0ppt

A

こころの医療センター駒ヶ根	62.9%	63.9%	△1.0ppt	59.0%	3.9ppt
阿南病院	57.3%	54.7%	2.6ppt	57.1%	0.2ppt
木曽病院	73.8%	78.0%	△4.2ppt	79.7%	△5.9ppt
こども病院	75.2%	78.8%	△3.6ppt	76.4%	△1.2ppt

・阿南病院を除き、医業収支比率は対計画を下回った。

今後の課題と方針

引き続き、医業収支比率の改善と経常黒字の維持に努める。

小項目 3-2 経営基盤の強化

B

<細項目 3-2-1> 収益の確保

・個別評価においてA評価 11項目、B評価が 23項目であったことから、B評価とした。

【延患者数】

(単位：人)

病院名	項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	入院	72,158	79,707	90.5%	75,716	95.3%
	外来	128,931	107,092	120.4%	119,439	107.9%
こころの医療センター駒ヶ根	入院	34,725	38,726	89.7%	33,708	103.0%
	外来	39,117	40,125	97.5%	38,937	100.5%
阿南病院	入院	14,826	15,168	97.7%	15,149	97.9%
	外来	48,529	40,225	120.7%	53,198	91.2%
木曽病院	入院	40,126	47,249	84.9%	46,839	85.7%
	外来	117,978	116,470	101.3%	128,534	91.8%
こども病院	入院	46,556	50,543	92.1%	49,891	93.3%
	外来	67,842	70,774	95.9%	67,384	100.7%

・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数は計画を下回った。外来患者は、信州医療センターで年度計画を大きく上回った。

・木曽病院は、院内で発生した新型コロナウイルス感染症のクラスターの影響で入院制限をしていた期間が何度かあったため、特に入院患者の減少が大きかった。

B

【新患者数】

(単位：人)

病院名	項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	入院	4,358	4,128	105.5%	4,302	101.3%
	外来	25,234	20,571	122.7%	20,842	121.1%
こころの医療センター駒ヶ根	入院	504	530	95.1%	501	100.6%
	外来	1,486	1,260	117.9%	1,284	115.7%
阿南病院	入院	800	804	99.5%	844	94.8%
	外来	3,579	2,650	135.1%	2,893	123.7%
木曽病院	入院	1,907	2,544	75.0%	2,414	79.0%
	外来	6,265	7,416	84.5%	7,324	85.5%
こども病院	入院	3,749	3,821	98.1%	3,840	97.6%
	外来	3,989	3,941	101.2%	3,795	105.1%

・各病院は、概ね年度計画を達成した。

【1人1日あたり診療単価】 (単位：円)						
病院名	項目	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	入院	53,398	50,372	106.0%	51,132	104.4%
	外来	16,180	18,200	88.9%	16,019	101.0%
こころの医療センター駒ヶ根	入院	29,137	27,629	105.5%	28,075	103.8%
	外来	7,297	7,122	102.5%	6,847	106.6%
阿南病院	入院	34,316	32,486	105.6%	32,887	104.3%
	外来	8,250	8,874	93.0%	6,847	120.5%
木曽病院	入院	38,244	35,827	106.7%	36,164	105.8%
	外来	11,235	12,563	96.0%	11,756	95.6%
こども病院	入院	111,954	107,600	104.0%	104,758	106.9%
	外来	12,116	13,740	88.2%	12,945	93.6%

・各病院は、概ね年度計画を達成した。

【平均在院日数】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	15.6日	14.0日	111.4%	14.8日	105.4%
こころの医療センター駒ヶ根	68.3日	70.0日	97.6%	64.6日	105.7%
阿南病院	16.3日	17.0日	95.9%	16.0日	101.9%
木曽病院	15.8日	15.3日	103.3%	16.0日	98.8%
こども病院	12.7日	13.1日	97.0%	12.6日	100.8%

・信州医療センターは、病棟における院内感染による退院制限及び結核患者受入再開により年度計画を上回った。

【病床利用率】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	64.4%	75.0%	△10.6ppt	70.0%	△5.6ppt
こころの医療センター駒ヶ根	72.7%	81.1%	△8.4ppt	70.5%	2.2ppt
阿南病院	54.9%	56.0%	△1.1ppt	56.0%	△1.1ppt
木曽病院	60.3%	70.9%	△10.6ppt	70.3%	△10.0ppt
こども病院	66.3%	71.1%	△4.8ppt	70.1%	△3.8ppt

・各病院は、県の要請による新型コロナウイルス感染患者受入れのための空床確保や陽性患者等の受入れにより、年度計画を下回った。

<細項目3-2-2>費用の抑制

・個別評価においてA評価が9項目、B評価が8項目、C評価が1項目であったことから、B評価とした。

・本部事務局は、コンサルタント及び各病院の薬剤部長等と連携した価格交渉を行い、医薬品費、医療材料費を以下のとおり削減した。

【医薬品費削減額】

(税抜：千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	合計
7,584	818	836	4,345	4,997	18,580

【医療材料費削減額】

(税込：千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	合計
4,071	1,319	678	1,875	2,039	9,982

B

・各病院は、薬品購入の一括契約や、価格交渉、高額手術の減等により、医薬品費、材料費の費用節減を行った。

【医療材料費/医業収益比率】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	30.0%	28.4%	1.6ppt	28.8%	5.2ppt
こころの医療センター駒ヶ根	5.3%	5.9%	△0.6ppt	5.8%	△0.5ppt
阿南病院	15.3%	14.6%	0.7ppt	13.7%	1.6ppt
木曽病院	21.4%	20.7%	0.7ppt	21.7%	△0.3ppt
こども病院	21.0%	20.8%	0.2ppt	21.7%	△0.7ppt

・こころの医療センター駒ヶ根を除く各病院は、新型コロナウイルス感染症対策に必要な検査に係る試薬購入の増加等により、計画を上回った。

【ジェネリック医薬品使用割合】

病院名	実績	年度計画	対計画比	前年度実績	対前年度比
信州医療センター	91.1%	88.0%	3.1ppt	89.8%	1.3ppt
こころの医療センター駒ヶ根	97.3%	87.0%	10.3ppt	95.7%	1.6ppt
阿南病院	84.7%	86.0%	△1.3ppt	86.1%	△1.4ppt
木曽病院	89.7%	90.0%	△0.3ppt	91.4%	△1.7ppt
こども病院	92.5%	90.0%	2.5ppt	92.1%	0.4ppt

・ジェネリック医薬品への切り替えを進め、概ね計画を達成した。

今後の課題と方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数や病床利用率、1人1日あたり診療単価が計画を下回る病院もあった。病床利用率の計画達成や正確な診療報酬の算定など、収益を確保するとともに、一層の費用の削減に取り組み、経営の安定に努める。

大項目 4

その他業務運営に関する事項

自己評定

B

(中期計画)

1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理

各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンスの強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。

また、長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるとともに、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。

2 施設整備及び医療機器に関する事項

地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。

また、相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。

【総評】

大項目の自己評定は、小項目をすべてB評定としたため、B評定とした。

【今後の課題と方針】

近年増加しているサイバー攻撃などへの備えを進めるとともに、長期的な視野に立った効果的な施設及び医療機器の整備に努める。

小項目 4-1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	B
<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評定が5項目、B評定が2項目であったことから、B評定とした。 ・機構本部と各病院等が連携し、全職員を対象としたコンプライアンスに関する研修を実施した。また、各病院の情報セキュリティ対策について、外部コンサルタントによる調査を実施し、セキュリティ対策上の課題の洗い出しを実施した。 ・病院等を対象とし、「職員の特定個人情報の管理」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施した。 	B
今後の課題と方針	
引き続き、コンプライアンスの推進と適切な情報管理に努める。	
小項目 4-2 施設整備及び医療機器に関する事項	B
<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価においてA評定が5項目、B評定が1項目であったことから、B評定とした。 	B

【施設及び設備の整備に関する計画】			
病院名	実績	年度計画	
病院機構全体	総額 2,215 百万円	総額 2,968 百万円	
<ul style="list-style-type: none"> 高額機器については、機構全体の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会で検討を行い、適正な購入に努めた。 			
今後の課題と方針			
引き続き、医療機器等の適正な購入・計画的な施設改修に努める。			
小項目 4 - 3 中期計画の見直しに関する事項			B
<ul style="list-style-type: none"> 中期計画の見直しについて、協議開始により概ね年度計画を達成したことから、B 評定とした。 本部事務局は、理事会において、県に見直し協議を行うことを報告し、県と協議を開始した。 			B
今後の課題と方針			
引き続き、県と協議を進める。			

2 病院等別

2-1 信州医療センター

【理念】

私たちは患者中心のチーム医療を実践し、信頼される病院を目指します。

【基本方針】

- 1 人と人とのつながりを大切にし、心が満たされる医療を提供します。
- 2 医療の質の向上を図り安全な医療を行います。
- 3 医療・保健・福祉との結びつきを強化し、地域住民の健康増進に寄与します。
- 4 地域医療を担う優れた人材を育成します。
- 5 感染症医療の拠点病院として、先端医療を提供します。
- 6 病院機能の維持発展のため、健全な経営を行います。

2-1-1 総合評価

【成果】

ア 産科医療体制の充実

- ・須高地域の分娩を担う施設としての役割を果たすため、7月の産科医師の退職に合わせて、助産師の活用と医師のタスク・シフトを目的に院内助産を開始。日中のみの実施であり、R4実績は2件。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により集団指導が難しい状況下でも、安心して妊娠、出産、育児ができるように、ZOOMでペアレンツクラス（両親学級）とヨガ教室を実施。また、立ち合い分娩も条件付きで継続。新型コロナウイルス陽性妊婦の対応マニュアルを作成し、陽性妊婦の経膈分娩の開始、近隣の病院で妊婦健診を受診している陽性妊婦の隔離期間中の対応も実施。

区分	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
分娩件数	253件	250件	3件	256件	△3件
産後 ケア	宿泊型	5人	-人	34人	△29件
	デイサービス型	1人	-人	2人	△1件

イ 在宅医療の提供

- ・訪問看護の強化により、在宅療養に寄与
- ・訪問診療、訪問看護では、新型コロナウイルス感染症拡大、在宅看取りの減少、療養者の状態悪化による入院が重なり利用者が減少。
- ・訪問リハビリは、産育休取得により、8月末までスタッフ1.5人体制で実施。（通常2人体制）

区分	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療	51件	265件	△214件	214件	△163件
訪問看護	4,099件	4,600件	△501件	4,226件	△127件
訪問リハビリ	3,714件	3,400件	314件	3,836件	△122件
計	7,864件	8,265件	△401件	8,276件	△412件

ウ 感染症医療の提供

- ・感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応
- ・地域住民を対象とした、院内でのワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制の強化に寄与。

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	328人	208人	120人
	延べ 3,294日	延べ 2,314日	980日
疑い患者受入数	4人	2人	2人
	延べ 81日	延べ 2日	79日
計	332人	210人	122人
	延べ 3,375日	延べ 2,316日	1,059日

【検査件数等】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査	1,541件	1,826件	△285件
抗原定性検査	5,665件	3,625件	2,040件
抗原定量検査	24,419件	8,240件	16,179件
計	31,625件	13,691件	17,934件

【発熱外来受入れ】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	9,383人	4,620人	4,763人

【ワクチン接種件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
接種件数	3,396件	5,072件	△1,676件

【市町村へのワクチン接種支援】

市町村	実績		前年度実績		対前年度実績	
須坂市	41日		95日		△54日	
	医師	看護師	医師	看護師	医師	看護師
	41人	41人	95人	96人	△54人	△55人

エ 内視鏡センターの運営

- ・ 近隣市町村及び医療関係機関との連携により、検査を実施

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
内視鏡検査件数	6,836件	8,000件	△1,164件	6,657件	179件

- ・ COVID 強化問診を徹底し、安全な環境で検査を実施
- ・ 対策型胃内視鏡検診を予定通り6月から実施

オ 医療従事者の養成と専門性の向上

- ・総合内科医の養成及び特定行為ができる看護師の育成により、県の医療水準向上に寄与

総合内科医の 養成	令和3年度開設した総合内科医育成学講座(寄附講座)に関する協定により、信州大学から担当教員(内科系)2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手しているが、日本専門医機構が認定するサブスペシャルティ領域に総合内科が認定されていないため、事業の進捗が遅れている。
特定行為に係る 看護師の育成	<p>9月30日 第2期看護師特定行為研修6人修了(当院3人) 領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 血糖コントロールに係る薬剤投与関連</p> <p>10月1日 第3期看護師特定行為研修開講 (第3期からは、機構外からの公募を開始) 「栄養水分に係る薬剤投与関連」を追加(当院3名) 領域別パッケージ研修「在宅・慢性期領域」 血糖コントロールに係る薬剤投与関連(当院2名)</p>

カ 働き方改革への対応

- 看護補助者の活用のため業務を見直し、看護師のタスク・シフト/シェアを推進
 - ・看護補助者活用のための管理者向け研修を、看護師長・副看護師長が受講(看護師長4名、副看護師長8名)
 - ・全看護師の理解も必要であるため、e-ラーニングによる学習を全看護師に実施
 - ・11月は看護補助者への指示を想定したグループワークを全看護師に実施
 - ・5月から、院内で3部署目となる南5階病棟に病棟クラークを配置
- 臨床検査技師、診療放射線技師及び臨床工学技士の厚生労働大臣指定講習費用の一部病院負担の実施
 - ・臨床検査技師等に関する法律の一部が改正され、医師や看護師の業務負担軽減に寄与するよう、臨床検査技師、診療放射線技師及び臨床工学技士に新たな業務範囲が追加された。それに伴い、業務を行うために必要な厚生労働大臣指定講習費用の一部を病院で負担し、受講を推進
 - ・コロナ禍の状況を踏まえて、感染対策に留意しつつ対象職員が計画的に受講できる環境を整えるなど、タスク・シフト/シェアを推進(研修受講希望者:35名、R4受講者:5名)

キ 費用の抑制

- ・当院で導入しているベンチマークシステムのデータを用いて、4月よりディーラーと診療材料の価格交渉を実施
- ・複数回の交渉により、年度換算で14,600千円の削減(年間実績では13,000千円)を達成
- ・逆ザヤ品611品目のうち437品目(71.5%)を解消

2-1-2 経営指標等

【経営指標】

信州医療センター 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	72,158 人	79,707 人	90.5%	75,716 人	95.3%
	外来	検診等 除く	107,092 人	120.4%	101,530 人	107.9%
		公衆衛 生活動			17,909 人	104.0%
新患者数	入院	4,358 人	4,128 人	105.6%	4,302 人	101.3%
	外来	25,234 人	20,571 人	122.7%	20,842 人	121.1%
1人1日 当たり 診療単価	入院	53,398 円	50,372 円	106.0%	51,132 円	104.4%
	外来 (検診等含む)	16,180 円	18,200 円	88.9%	16,019 円	101.0%
医業収益	入院	3,853,099 千円	4,014,990 千円	96.0%	3,871,548 千円	99.5%
	外来	2,086,089 千円	1,949,070 千円	107.0%	1,913,281 千円	109.0%
	合計	5,939,188 千円	5,964,060 千円	99.6%	5,784,829 千円	102.5%
平均在院 日数		15.6 日	14.0 日	1.6 日	14.8 日	0.8 日
病床利用率		64.4%	75.0%	△10.6 ポイント	70.0%	△5.6ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数、病床利用率 病棟の入退院制限や、地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟への転用、手術の制限により対計画値で減少 入院単価 結核病棟（新型コロナウイルス感染症受入病棟）において、症状が比較的重い中等症患者割合が高まったため上昇 平均在院日数 病棟における院内感染による退院制限及び結核患者受入再開により対計画値超え <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数 主に内科、呼吸器内科、救急科において患者が増加したため対計画値・対前年度で増加。コロナ禍以前より増加 外来単価 外来患者数は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の行政検査の割合が高く対計画値で減少 					

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	24.5%	31.0%	△6.5ポイント	28.4%	△3.9ポイント
逆紹介率	26.7%	28.0%	△1.3ポイント	26.8%	△0.1ポイント
コメント	<p>◆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症用即応病床確保による地域包括ケア病床の削減と新型コロナウイルス感染を疑い自発的に受診する患者や、保健所からの初診患者の増加により紹介率は減少 <p>◆逆紹介率</p> <ul style="list-style-type: none"> 院内啓発と診療部の協力等により、昨年度とほぼ同等の水準を維持 				

【損益計算書】

信州医療センター

(税抜、単位：千円)

科目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画増減 a-b	R3 累計 c	対前年度増減 a-c
経常収益 (ア)	8,250,307	7,494,218	756,089	7,892,758	357,549
医業収益	6,224,370	6,250,506	△ 26,136	6,071,959	152,411
運営費負担金収益	1,130,595	1,093,572	37,023	1,058,820	71,775
その他経常収益	895,342	150,140	745,202	761,979	133,363
経常費用 (イ)	7,913,146	7,593,488	319,658	7,634,559	278,587
医業費用	7,535,504	7,237,717	297,787	7,260,544	274,960
給与費	3,819,388	3,721,768	97,620	3,739,133	80,255
材料費	1,932,446	1,743,379	189,067	1,811,672	120,774
減価償却費等	629,570	645,480	△ 15,910	599,599	29,971
経費	1,142,204	1,115,879	26,325	1,098,666	43,538
研究研修費	11,897	11,211	686	11,476	421
財務費用	85,192	84,965	227	93,510	△ 8,318
その他経常費用	292,450	270,806	21,644	280,505	11,945
経常損益 (ア-イ)	337,161	△ 99,270	436,431	258,199	78,962
臨時損益 (ウ)	△ 23,081	0	△ 23,081	△ 312	△ 22,769
当期純損益 (ア-イ+ウ)	314,080	△ 99,270	413,350	257,887	56,193
病床確保料(エ)	724,200	0	724,200	545,138	179,062
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△ 410,120	△ 99,270	△ 310,850	△ 287,252	△ 122,868
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の要請によるコロナ病床確保のための病床数減及び院内感染に係る運用病床の縮小の影響等により、医業収益は計画に対し 26,136 千円の減 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナに係る手当、処遇改善手当の支給、外部の医療機関からの麻酔科 				

	<p>医師等への報酬による給与費の増加、コロナ検査試薬の購入による材料費の増加、光熱費の単価上昇、CTの管球交換による経費の増加、医業費用は計画に対し297,787千円の増</p> <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none">・病床確保料724,200千円を含めると337,161千円の黒字（病床確保料を含まない損益で、410,120千円の損失）
--	--

2-2 こころの医療センター駒ヶ根

【理 念】

- 1 私たちは、患者さんの人権を尊重し、信頼される医療サービスを提供します。
- 2 私たちは、長野県の精神科医療の中核病院として、質の高い専門医療を提供します。
- 3 私たちは、医療安全を推進し、人にやさしい病院を目指します。

【基本方針】

- 1 患者さん一人ひとりと向き合い、権利の尊重と個別性への配慮に努めます。
- 2 救急・急性期を始めとする地域のニーズに応えるとともに、長野県の精神科医療の中核を担います。
- 3 良質で安全な精神科医療を提供すべく、専門的知識の習得と医療技術の向上に努めます。
- 4 多職種チーム医療を実践します。
- 5 保健・医療・福祉・教育機関と連携して、患者さんの地域生活を支援します。
- 6 精神科医療を担う人材育成と医療の質の向上のための研究・研修に取り組みます。

2-2-1 総合評価

【成 果】

ア 第3期中期計画の主要事業の実施状況

- ・インターネット・ゲーム依存症治療への対応（令和4年5月治療プログラム開始）
先進病院の取組みを参考に、令和2年度から試験的に患者の受入れを行い、治療評価後、病院独自の治療の枠組みを確立させ、県内で初めて令和4年4月から家族向けの学習プログラムを開始。その後、5月から入院・外来治療プログラムを開始
- ・「子どものこころ総合医療センター」基本計画の策定（令和5年3月）
児童・思春期、青年期精神科医療の充実のための「子どものこころ総合医療センター」の開設に向け、構想の意義や目的、センターに必要な機能や設備等を盛り込んだ基本計画を策定
- ・子どものこころ専門医研修施設群認定（令和4年4月運営開始）
児童・思春期、青年期精神科医療の医師育成を行うため、「子どものこころ専門医研修施設群」の基幹施設として認定。小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とする「子どものこころ専門医」を養成するため、県立こども病院、信州大学子どものこころ診療部と連携した運営を開始
- ・精神科訪問看護ステーション「こまほす」の開設（令和4年8月）
精神障害者が地域の一員として、安心して生活ができるよう専門性の高い精神科訪問看護を提供するため訪問看護ステーション「こまほす」を開設
- ・rTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）の開始（令和4年7月）
「治療抵抗性うつ病」の患者に対し、薬物療法ではない新たな治療の選択肢として、侵襲性の低い治療法となるrTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）を開始（県内2施設目）
- ・看護師の二交代制勤務の本格導入（令和4年8月）
看護職員のワークライフバランス充実のため、令和3年11月より試行的に実施していた病棟部門における二交代制勤務を令和4年8月より本格導入

イ 精神科救急医療・高度専門医療の提供

- ・24時間365日対応により措置入院患者等を受入れ

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
措置入院件数	24件	23件	1件

- ・ウォークイン救急患者（外来救急患者）への速やかで適切な入院治療を提供

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
ウォークイン救急患者数	94人	81人	13人
うち入院	57人	38人	19人
入院割合	60.6%	46.9%	13.7ポイント

- ・専門医療の提供

クロザピン（治療抵抗性統合失調症治療薬）の投薬、m-ECT（修正型電気痙攣療法）の治療、新たにrTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）を開始（令和4年7月）

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
クロザピン（治療抵抗性統合失調症治療薬）の投薬実人数	16人	14人	2人
m-ECT（修正型電気痙攣療法）治療実施件数	322件	245件	77件
rTMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）治療実施件数	4件	—	皆増

- ・司法精神医療の提供

全国的に医療観察法の病床が不足しているため、一般病床で医療観察法の対象者を受け入れる特定病床を令和4年3月14日から開始し、2人が対象となった。

ウ インターネット・ゲーム依存症医療の提供

- ・社会的に治療ニーズが高まっているインターネット・ゲーム依存症治療において、令和4年4月から新たに家族向け学習プログラムを開始（月1回）、5月から入院・外来治療プログラムを開始

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
家族学習プログラム	27家族（34人）	—	皆増
治療プログラム	8人 （入院3人、外来5人）	—	皆増

エ 児童・思春期精神医療の提供

- ・児童・思春期、青年期精神科医療の充実のため、信州大学医学部と連携した「児童・思春期、青年期精神科医療モデル病院」を目指して、開設予定である「子どものこころ総合医療センター」の基本計画を策定。現状や課題、ニーズを整理し「専門医療、次世代型デイケア、人材育成、支援者支援」の4つの柱を掲げ、センターに必要な入院・外来、その他機能や部門別計画、収支計画を立案

オ 認知症専門医療の提供

・認知症疾患医療センターにおける専門医療相談等の実施

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響や専任の相談員の長期療養休暇により、専門医療相談及びもの忘れ外来件数が大きく減少

項目		実績	前年度実績	対前年度実績
専門医療 相談	電話	753件	1,198件	△445件
	面接	488件	515件	△27件
	計	1,241件	1,713件	△472件
もの忘れ外来件数		1,700件	1,903件	△203件
うち鑑別診断		104件	124件	△20件

カ 精神科訪問看護の実施

- ・精神科地域包括ケアシステムを推進するため、専門性の高い精神科訪問看護サービスを提供する訪問看護ステーション「こまほす」を開設（令和4年8月）
- ・令和4年4月から、訪問看護のニーズにより対応するため訪問看護師の夜勤免除を行った結果、訪問件数が増加
- ・初回入院患者の退院後訪問（1か月間毎週）の実施により、3か月以内の再入院を抑制

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問看護件数	2,282件	2,057件	225件	1,796件	486件
再入院率	17.9%	—	—	18.4%	△0.5ポイント

キ 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進

- ・児童相談所・要保護児童対策地域協議会等と連携し、自殺企図児童や児童虐待、摂食障害などの緊急入院に対応

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
新規入院患者数	50人	45人	5人
うち緊急・優先入院	21人	6人	15人

ク 医療従事者の養成と専門性の向上

- ・初期研修医制度の精神科必須化に伴い、地域の総合病院から研修医を受入れ

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
初期研修医	13人	17人	△4人

ケ 信州大学との連携

- ・連携大学院教育による勤務医の博士号取得に係る臨床研究を実施

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
連携大学院生在籍数	2人	2人	0人

コ 働き方改革

- ・看護職員のワークライフバランス充実のため、令和3年11月より試行的に実施していた病棟部門における二交代制勤務を令和4年8月より本格導入

サ 職員の勤務環境の向上

- ・働き方改革を推進するため、二交代制勤務の実施、振替休日の取得の徹底、勤務時間管理及び業務の効率化により超過勤務時間を削減

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
総超過勤務時間	6,958 時間 40 分	7,487 時間 42 分	△529 時間 2 分

シ 費用の抑制

- ・時差勤務等の勤務時間管理、業務の効率化及びセクションごとの目標値（昨年比2割減）設定により、超過勤務手当を縮減

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
超過勤務手当縮減額	20,629,200 円	25,544,031 円	△4,914,831 円

ス 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染症重点医療機関として精神疾患を有する感染者の入院受入体制を確保するとともに、県からの即応病床増床要請に対応(2床から8床)

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	11 人 延べ 89 日	5 人 延べ 58 日	6 人 31 日
疑い患者受入数	1 人 延べ 3 日	8 人 延べ 23 日	△7 人 △20 日
計	12 人 延べ 92 日	13 人 延べ 81 日	△1 人 延べ 11 日

【検査件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
PCR検査※	849 件	109 件	740 件
抗原定性検査	339 件	115 件	224 件
計	1,188 件	224 件	964 件

※令和3年12月までは外部委託、令和4年1月から院内検査を開始

【ワクチン接種件数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	323 件	387 件	△64 件
医療従事者	366 件	1,136 件	△770 件
計	689 件	1,523 件	△834 件

※前年度は地域の医療従事者や医療専門学校へのワクチン接種に対応

2-2-2 経営指標等

【経営指標】

こころの医療センター駒ヶ根 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	34,725人	38,726人	89.7%	33,708人	103.0%
	外来	39,117人	40,125人	97.5%	38,937人	100.5%
新患者数	入院	504人	530人	95.1%	501人	100.6%
	外来	1,486人	1,260人	117.9%	1,284人	115.7%
1人1日 当たり 診療単価	入院	29,137円	27,629円	105.5%	28,075円	103.8%
	外来	7,297円	7,122円	102.5%	6,847円	106.6%
医業収益	入院	1,011,779 千円	1,069,948 千円	94.6%	946,337 千円	106.9%
	外来	285,455 千円	285,788 千円	99.9%	266,617 千円	107.1%
	合計	1,297,234 千円	1,355,736 千円	95.7%	1,212,954 千円	106.9%
平均在院日数		68.3日	70.0日	97.6%	64.6日	105.7%
病床利用率		72.7%	81.1%	89.6%	70.5%	103.1%
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 県からの新型コロナウイルス感染症即応病床の増床要請を受けて入院抑制を実施し、対計画で減少 ・入院単価 診療単価の高い児童精神科病棟と医療観察法ユニットの高稼働により、対計画で上昇 ・平均在院日数 入退院患者数の減により対前年では平均在院日数が伸びたが、概ね計画どおり ・病床利用率 県からの即応病床増床要請により退院促進、入院抑制を行ったため、患者数が回復せず、対計画で利用率が低下 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 外来の延べ患者数は、概ね計画どおり ・外来単価 昼食提供なしのデイケアの継続、診療単価の高い「訪問看護ステーションこまほす」の新たな開設に伴い、対計画、対前年ともに単価が上昇 					

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	38.5%	55.0%	△16.5ポイント	49.3%	△10.8ポイント
逆紹介率	38.2%	40.0%	△1.8ポイント	44.6%	△6.4ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・紹介患者数自体は対前年と横ばいであったが、職員の新型コロナウイルス感染症検査により、初診患者数が大幅に増加し対計画、対前年ともに低下</p> <p>◆逆紹介率 ・近隣クリニックの初診が3か月以上の待ちの状態となっているため、逆紹介が難しく、対計画、対前年ともに低下</p>				

【損益計算書】

こころの医療センター駒ヶ根

(税抜、単位：千円)

科目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,320,710	2,193,187	127,523	2,145,113	175,597
医業収益	1,312,989	1,367,243	△ 54,254	1,231,145	81,844
運営費負担金収益	774,729	757,713	17,016	747,073	27,656
その他経常収益	232,992	68,231	164,761	166,895	66,097
経常費用 (イ)	2,161,245	2,212,888	△ 51,643	2,165,053	△ 3,808
医業費用	2,085,843	2,139,089	△ 53,246	2,088,413	△ 2,570
給与費	1,452,340	1,482,087	△29,747	1,465,012	△ 12,672
材料費	103,437	118,291	△ 14,854	103,414	23
減価償却費	190,041	200,215	△ 10,174	190,315	△ 274
経費	335,016	332,172	2,844	325,037	9,979
研究研修費	5,008	6,324	△ 1,316	4,635	373
財務費用	30,436	30,338	98	32,564	△ 2,128
その他経常費用	44,966	43,461	1,505	44,076	890
経常損益 (ア-イ)	159,465	△ 19,701	179,166	△ 19,941	179,406
臨時損益 (ウ)	0	0	0	544	△ 544
当期純損益 (ア-イ+ウ)	159,465	△ 19,701	179,166	△ 19,397	178,862
病床確保料(エ)	162,519	0	162,519	95,779	66,740
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△ 3,054	△ 19,701	16,647	△ 115,176	112,122
コメント	<p>◆経常収益 ・県からの「新型コロナウイルス感染症即応病床」の増床要請を受けて入院抑制を実施したため、対計画で入院収益が減少</p> <p>◆経常費用 ・経費は、施設修繕の増加、電気代の高騰により、対計画、対前年で増加 ・給与費は、超過勤務手当の縮減や休日給の削減により、対計画、対前</p>				

	<p>年ともに減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減価償却費は、医療機器（CT）の購入先送りにより、対計画で減少 <p>◆経常損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病床確保料を含めると 159,465 千円の黒字(病床確保料を除く損益は、3,054 千円の損失)
--	--

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-3 阿南病院・阿南病院訪問看護ステーションさくら・阿南介護老人保健施設

【理 念】

- 1 私たちは、地域の中核病院として、質の高い適正な医療を提供します。
- 2 私たちは、患者さんの人権を尊重し、明るく、やさしさと思いやりのある医療を提供します。
- 3 私たちは、地域の保健・医療・福祉機関との連携のもと、地域に根ざした医療を提供します。

【基本方針】

- 1 患者さんとその生活の全てを総合的に診る全人的医療の実践に努めます。
- 2 交通事情や地域ニーズに合った巡回診療、訪問診療・看護・リハビリなどの在宅医療を行い、利便性向上と地域医療の提供に努めます。
- 3 認知症患者などに適切な医療を提供できるよう、地域の関係者と勉強会を実施するなど連携を強化し、地域全体で高齢者を支えます。
- 4 下伊那南部地域唯一の病院として、年間を通して休日・夜間患者などの救急患者の診療を行います。
- 5 下伊那南部地域唯一の病院として、疾病の予防・早期発見及び治癒に寄与できるように、体制や医療機器の充実に努めます。
- 6 地域住民との連携を図るために積極的な情報発信や交流を行います。
- 7 「人材確保」のために必要な環境整備に努めるとともに、「人材育成」のため院内研修会などの充実に努めます。

2-3-1 総合評価

【成 果】

ア へき地医療の取組

- ・病院への来院が難しい阿南町和合地区における巡回診療を実施（月2回）
- ・常勤医師が不在となった売木村診療所へ代診医師を派遣（週1回）
- ・売木村診療所の診療回数を増やすため、病院と診療所をインターネット回線で結ぶオンライン診療を開始（週1回）

【診療実績】

区 分	項 目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
巡回診療	回 数	25回	26回	△1回	26回	△1回
	延べ患者数	72人	75人	△3人	74人	△2人
売木村診療所 派遣	対面診療	47回	—	—	47回	±0回
	オンライン診療	30回	—	—	—	皆増

（注）売木村診療所の患者は阿南病院の患者ではないため、患者数は未記載

- ・当院の医療機器の有効利用と近隣の診療所における診断範囲の向上を図るため、CT及びMRIの機器共同利用を開始（2診療所、依頼件数45件）

【共同利用実績】

機 器	実績	前年度実績	対前年度比
C T	30 件	0 件	皆増
M R I	15 件	0 件	皆増
計	45 件	0 件	皆増

イ 地域医療の提供

- ・リハビリ室の床材の変更、言語聴覚室の整備、車いすトイレの整備、ADL（日常生活動作）練習機器の整備などの改修工事により、リハビリテーションセンターの快適性が高まり、患者サービスが充実・向上

ウ 在宅医療の推進

- ・訪問診察、訪問看護、訪問リハビリ、服薬指導等を実施することで在宅医療を推進

【実施件数】

項 目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療	205 件	250 件	△45 件	237 件	△32 件
訪問看護	2,533 件	2,900 件	△367 件	2,767 件	△234 件
訪問リハビリ	862 件	830 件	32 件	1006 件	△144 件
訪問薬剤指導	32 件	25 件	7 件	25 件	7 件
合 計	3,632 件	4,005 件	△373 件	4,035 件	△403 件

エ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・新型コロナウイルス感染者の受入れ及び検査を実施
- ・新型コロナウイルス第7波到来による感染者急増により増加した発熱外来受診者に対応、休日検査を実施

【感染者等受入数】

項 目	実績	前年度実績	対前年度実績	
入院患者	人数	48 人	49 人	△1 人
	延べ日数	448 日	364 日	84 日
発熱外来受診者数	2,323 人	515 人	1,808 人	

【検査件数】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
P C R検査	2,882 件	1,333 件	1,549 件
抗原定性検査	1,636 件	249 件	1,387 件
計	4,518 件	1,582 件	2,936 件

- ・クラスターが発生した社会福祉施設へ感染管理認定看護師を派遣（9回）
- ・感染症患者入院時における病床の効率的な運用に向け、3階病棟の改修工事を実施

オ 新型コロナウイルスワクチンの接種

- ・下伊那南部5町村と連携し、新型コロナウイルスワクチン4回目の住民接種を実施。一般住民への接種のほか、医療従事者への接種、当院が施設医を務める高齢者施設等の入所者への接種、外出が困難な患者宅を訪問しての接種を実施
- ・5町村の乳幼児・小児を対象とする1・2回目の新型コロナウイルスワクチン接種を一手に引き受け病院内で実施

【ワクチン接種実績】

接種対象	実績	前年度実績	対前年度実績
一般住民	3,652件	7,682件	△4,030件
医療従事者	416件	905件	△489件
乳幼児・小児	531件	74件	457件
計	4,599件	8,661件	△4,062件

カ 近隣の社会福祉施設との連携強化

- ・下伊那南部地域の社会福祉施設と当院とで構成する「地域医療福祉連携会議」を、四半期毎に開催し、入所施設の当院に対するニーズや施設の問題点、課題の把握に努め、施設へのリソースナース（専門看護師、認定看護師、特定看護師）の派遣、当院と施設間の食形態の共通化等を推進

キ 認知症の専門医療の提供

- ・認知症看護認定看護師の配置を継続し相談体制を維持
- ・HDS-Rなどの認知機能スクリーニング検査を認知症看護認知看護師と作業療法士が協働して実施
- ・認知症看護認定看護師が院内デイサービスの運営に関わることで、認知症の入院患者の生活の質を維持
- ・シルバー人材センターから看護師資格保有者を派遣してもらうなど、地域の医療資源を有効に活用しながら、院内デイサービス提供体制を維持

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
認知症デイサービス	700人	633人	67人

ク 県内医療に貢献する医療従事者の確保・養成

- ・阿南高等学校、信州木曾看護専門学校への講師派遣及び実習生受入により医療従事者の確保・養成に尽力

【派遣・受入実績】

区分	状況
講師派遣	阿南高等学校福祉コース18回（介護福祉員）、信州木曾看護専門学校2回（看護師）
実習生受入	飯田女子短大15人・20日間、信州木曾看護専門学校27人・5日間

ケ 安全で信頼できる医療の提供

- ・入院当初から退院支援を行うことで患者・家族が安心できるよう地域連携室へ専従看護師を配置
- ・摂食嚥下障害看護認定看護師を中心に多職種が参加する摂食嚥下チームによる誤嚥減少への取組を継続

コ 医療サービスの向上

- ・個室病室1室をトイレ、シャワー付きに改修し、患者のニーズに対応した入院環境を整備

サ 先端技術の活用

- ・当院から医師を派遣している売木村診療所の診療回数を増やすため、オンライン診療を導入（再掲）
- ・発熱患者に対する問診を非接触で行うWeb問診を導入（28回）

シ 出前講座の実施

- ・当院職員の専門知識を生かし、地域住民の健康意識の向上や病院の情報発信となるよう「出前講座」（メニュー29講座）を企画し、地域からの要望に応じて医師やリソースナースを派遣（8回実施、136人参加）

ス 中学校BLS講習会の開催

- ・下伊那南部地域の中学生が緊急時に一次救命措置（Basic Life Support）が行えるよう、本部研修センターの協力を得ながら、人口呼吸の仕方やAED（自動体外式除細動器）の取り扱いを学ぶ講習会を開催

【開催実績】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
学校数	5校	3校	2校
参加者数	100人	58人	42人

セ 働き方改革への対応

- ・当院から医師を派遣している売木村診療所の診療回数を増やしつつも医師の負担軽減を図るため、オンライン診療を導入（再掲）
- ・医師の業務負担軽減を図るため非常勤当直医師を雇用

ソ 収益の確保

- ・診療報酬改定で評価の高くなった地域包括ケア病床における自宅・老人保健施設からの直接入院や他院からの転院患者の増加に努めた結果、入院診療単価が増加

【地域包括ケア病床初期加算の状況】

区分		実績	前年度実績	対前年度実績
入院	自宅から	939件 3,760千円	383件 1,149千円	556件 2,611千円
	介護老人保健施設から	57件 285千円	—	皆増
転床	自院の一般病床から	1,055件 1,319千円	589件 884千円	466件 435千円
転院	他院の一般病床から	250件 625千円	—	皆増

- ・算定フローを見直した結果、入退院支援加算1の算定数が増加（75件増 前年比179.8%）

【算定実績】

加算内容	実績	前年度実績	対前年度実績
入退院支援加算1	169件 1,183千円	94件 564千円	75件 619千円

タ 介護サービスの提供

①阿南病院訪問看護ステーションさくら

- ・当院による運営3年目となる訪問看護ステーションさくらの安定的な運営に努め、下伊那南部地域の在宅看護の体制を維持

【訪問看護ステーション利用実績】

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	2,533件	2,900件	△367件	2,767件	△234件

②阿南介護老人保健施設

- ・在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、「在宅超強化型」の単位数を年間を通して算定
- ・科学的介護推進システム（LIFE）へのデータ提出により、「栄養マネジメント強化加算」「通所リハマネジメント加算」「科学的介護推進体制加算」を算定することにより、入所単価が向上

【利用者数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
延べ入所者数	14,322人	13,969人	353人
延べ通所者数	679人	607人	72人

【介護保健施設サービス費】 ※基本サービス料+加算金額

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
算定件数	14,322件	13,969件	353件
算定金額	146,677千円	135,815千円	10,862千円

2-3-2 経営指標等

【経営指標】

1 阿南病院 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比	
延患者数	入院	14,826人	15,168人	97.7%	15,149人	97.9%	
	外来	検診等 除く	38,846人	40,225人	96.6%	39,572人	98.2%
		公衆衛 生活動	9,683人	-	-	13,626人	71.1%
新患者数	入院	800人	804人	99.5%	844人	94.8%	
	外来	3,579人	2,650人	135.1%	2,893人	123.7%	
1人1日 当たり 診療単価	入院	34,316円	32,486円	105.6%	32,888円	104.3%	
	外来 (検診等含む)	8,250円	8,874円	93.0%	6,847円	120.5%	
医業収益	入院	508,774千円	492,748千円	103.3%	498,200千円	102.1%	
	外来	400,366千円	356,969千円	112.2%	364,239千円	109.9%	
	合計	909,140千円	849,717千円	107.0%	862,439千円	105.4%	
平均在院 日数 (一般病棟)		16.3日	17.0日	△0.7日	16.0日	0.3日	
病床利用 率		54.9%	56.0%	△1.1 ポイント	56.5%	△1.6 ポイント	
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延患者数は、新型コロナウイルス感染症第7波による入院患者制限や常勤医師の減員などにより、目標を下回った。 ・新患者数は、新型コロナウイルス感染症第7波による入院制限などにより、目標及び前年度を下回った。 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新患者数は、発熱外来患者数の増加により目標及び前年度を上回った。 						

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
紹介率	26.2%	20.0%	6.2ポイント	34.2%	△8.0ポイント
逆紹介率	21.7%	15.0%	6.7ポイント	22.4%	△0.7ポイント
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市立病院からの新型コロナウイルス感染者の転院受入れ及び診療所からの紹介により紹介率は対計画を上回り、診療所からの紹介の増加に伴い逆紹介率も増加したが、前年度を下回った。 				

2 阿南介護老人保健施設 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
利用者数	入所者	14,322人	14,600人	98.1%	13,969人	102.5%
	通所者	679人	660人	102.9%	607人	111.9%
1人1日 当たり単価	入所	11,675円	11,371円	102.7%	10,992円	106.2%
	通所	10,949円	11,000円	99.5%	11,132円	98.4%
営業収益	入所	83,922千円	79,599千円	105.4%	78,935千円	106.3%
	通所	4,270千円	3,630千円	117.6%	3,696千円	115.5%
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域全体の人口減少や他施設との競合など厳しい状況が続いているが、新規利用者の獲得に努め、入所者・通所者とも前年度を上回った。 ・在宅復帰率の向上や在宅訪問を進め、基本サービスの施設基準について、「在宅超強化型」の単位数を年間通して算定できた。加えて科学的介護推進システム（LIFE）へのデータ提出により「栄養マネジメント強化加算」「通所リハマネジメント加算」「科学的介護推進体制加算」を算定することにより、入所単価が向上した。 					

【損益計算書】

1 阿南病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R 4 累計 a	R 4 計画 b	対計画 増減 a-b	R 3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	2,070,471	1,711,120	359,351	2,107,538	△ 37,067
医業収益	970,342	900,250	70,092	937,399	32,943
運営費負担金収益	780,618	757,958	22,660	748,368	32,250
その他経常収益	319,510	52,912	266,598	421,771	△ 102,261
経常費用 (イ)	1,758,166	1,707,189	50,977	1,705,913	52,253
医業費用	1,693,778	1,645,317	48,461	1,642,071	51,707
給与費	986,663	946,853	39,810	964,769	21,894
材料費	162,172	146,165	16,007	140,477	21,695
減価償却費	224,865	226,726	△ 1,861	209,272	15,593
経費	315,687	319,199	△ 3,512	322,506	△ 6,819
研究研修費	4,391	6,374	△ 1,983	4,046	345
財務費用	15,349	15,450	△ 101	16,393	△ 1,044
その他経常費用	49,039	46,422	2,617	47,449	1,590
経常損益 (ア-イ)	312,305	3,931	308,374	401,626	△ 89,321
臨時損益 (ウ)	△ 12,728	0	△ 12,728	△ 434	△ 12,294
当期純損益 (ア-イ+ウ)	299,577	3,931	295,646	401,191	△ 101,614
病床確保料(エ)	266,179	0	266,179	364,088	△ 97,909
病床確保料を除く当期 純損益(ア-イ+ウ-エ)	33,398	3,931	29,467	37,103	△ 3,705
コメント	<p>◆経常収益 ・医業収益は、診療単価の増等により、計画・前年度をともに上回った。</p> <p>◆経常費用 ・給与費は、処遇改善評価料の新設や退職給付引当金の増等により、計画・前年度をともに上回った。 ・材料費は、診療材料の増加や高額薬品の購入などにより、計画・前年度をともに上回った。 ・経費は、原油価格高騰による燃料費、電気料の増があったが、委託料等の減により、計画・前年度をともに下回った。</p> <p>◆臨時損益 ・病床確保料における対象病床数の計上誤りによる返還金の発生があった。</p>				

2 阿南介護老人保健施設

(税抜、単位：千円)

科 目	R 4 累計 a	R 4 計画 b	対計画 増減 a-b	R 3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	259,846	240,827	19,019	244,684	15,162
介護老人保健施設収益	201,072	194,840	6,232	188,168	12,904
運営費負担金収益	57,600	45,837	11,763	56,111	1,489
その他経常収益	1,173	150	1,023	405	768
経常費用 (イ)	211,143	234,258	△ 23,115	215,543	△ 4,400
介護老人保健施設費用	202,279	224,714	△ 22,435	204,297	△ 2,018
給与費	131,808	148,994	△ 17,186	134,889	△ 3,081
材料費	14,048	14,423	△ 375	12,934	1,114
減価償却費	23,295	23,466	△ 171	23,099	196
経費	32,748	37,458	△ 4,710	33,228	△ 480
研究研修費	380	373	7	147	233
財務費用	4,237	4,429	△ 192	6,631	△ 2,394
その他経常費用	4,627	5,115	△ 488	4,615	12
経常損益 (ア-イ)	48,703	6,569	42,134	29,141	19,562
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	48,703	6,569	42,134	29,141	19,562
コメント	<p>◆経常収益 ・年間を通じての「在宅超強化型」の維持、利用者の増等により、計画・前年度をともに上回った。</p> <p>◆経常費用 ・給与費が、正規職員の定年によるパート職員への切替え等により、計画・前年度をともに下回った。</p>				

2-4 木曽病院・木曽病院介護医療院・木曽介護老人保健施設

【理 念】

私達は、患者さんの立場にたち、信頼と満足が得られて、心のふれ合いのある医療サービスを実践します。

【基本方針】

- 1 木曽で唯一の病院として、いつでも安心してかかることができる地域に信頼される病院をめざします。
- 2 人権を尊重し、十分な説明と同意（インフォームドコンセント）に基づいた医療サービスを提供します。とりわけチーム医療に取り組みます。
- 3 つねに新しい知識技術の習得に努め、地域に根ざした質の高い医療を提供します。とりわけ救急医療の充実に努めます。
- 4 町村や他の医療・福祉・保健・介護施設と連携を強化して、地域の要望に応えられるよう努めます。とりわけ在宅医療を充実します。
- 5 清潔、快適で安らぎのある療養環境の整備改善に努めます。
- 6 人間性にあふれた、働きがいのある病院運営に努めます。
- 7 健全経営の維持に努めます。

2-4-1 総合評価

【成 果】

ア 在宅医療の充実

- ・在宅療養支援病院として、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保
- ・施設に対する訪問診療の頻度を見直し、毎月訪問を3か月に1回の訪問に変更等に伴い利用者減少

項 目	実 績	年度計画	対年度計画	前年度 実績	対前年度 実績
訪問診療件数	232件	500件	△268件	559件	△327件
訪問看護件数	3,455件	4,200件	△745件	4,254件	△799件
訪問リハビリ件数	931件	850件	81件	1,027件	△96件
計	4,618件	5,550件	△932件	5,840件	△1,222件

イ 産科医療の提供

- ・産科の療養環境改善のため、産科ユニットの改修を完了し、レディースゾーンの受入れを開始
- ・伊那中央病院と連携し、土日の緊急手術に備えた麻酔科医待機態勢を継続

項 目	実績	年度計画	対年度計画	前年度 実績	対前年度 実績
分娩件数	78件	80件	△2件	75件	3件

ウ へき地医療の提供

- ・巡回診療の実施により、無医地区の医療環境の確保に貢献

- ・上松町2地区（台、才児）への巡回診療を各地区月1回実施、対象患者の入院や施設入所により、患者数が減少

地区名	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
台	7回 (7人)	12回 (24人)	△5回 (△17人)	7回 (7人)	△0回 (△0人)
才児	11回 (11人)	12回 (24人)	△1回 (△13人)	12回 (25人)	△1回 (△14人)

- ・木曾町みたけ診療所医師の体調不良に伴い、11月から月2回、医師を派遣

エ 診療機能の充実

- ・地域がん診療病院として4月からは、診療を週1回から2回とし、診療機能を充実

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
歯科口腔外科 患者数	974件	485件	489件

- ・地域の要望により令和4年6月から月1回、児童思春期発達外来を開設

オ 災害医療の提供

- ・災害拠点病院及びDMAT（災害派遣医療チーム）指定病院として、スタッフを積極的に研修等へ参加させ、体制を維持
- ・災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、5月の電子カルテ更新に合わせて、電子カルテデータの遠隔及び静的バックアップの仕組みを整備

カ 認知症医療の充実

令和4年4月1日に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センター運用フローを作成し活動を開始

- ・認知症疾患医療センターは、電話相談30件、面接相談2件を実施
- ・患者サポートセンターや脳神経内科窓口においても相談を受付
- ・桔梗ヶ原病院（塩尻市）と共催で、認知症講演会を開催

キ 介護サービスの充実

○ 介護医療院

- ・多職種との連携を強化し、入所者のニーズに応じた生活支援を実施
- ・長期利用者の退所などの影響により、利用者数5,899人、対前年度比91.3%となった。

○ 木曾介護老人保健施設

- ・在宅復帰支援機能評価指標の最上位である在宅超強化型の算定を6月から開始したことで、自宅での生活能力向上に向けた支援を実施するとともに入所単価向上を図った。入所単価14,013円、対前年度比107.5%。

- ・多職種による自宅訪問を実施し、在宅復帰に重点を置いたサービスを提供

ク 地域包括ケアシステムの推進

在宅療養支援病院として24時間往診（医師）と訪問看護の体制を確保し、緊急時の迅速な対応を実施

ケ 医療等サービスの一層の向上

- ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に基づくリビングウィル（事前指示書）について、患者サポートセンター内に相談窓口を設置、ポスター掲示、パンフレットの設置等の広報に合わせ看護協会木曾支部、木曾広域連合在宅医療介護支援センターと共催し、介護スタッフ向け研修会等の開催
- ・電子カルテ更新による番号案内表示システム、自動精算機の導入

コ 先端技術の活用

- ・新型コロナウイルス感染症対策で面会禁止となっている入院患者にオンラインによる面会を実施
- ・外来診療におけるAI問診サポートの活用

サ 京セラ式アメーバ経営の運用の推進

- ・時間当り採算指標とBSC（バランススコアカード）を用い、毎月のリーダー面談で課題の取組状況を確認、院長・事務部長面談により課題を共有、優良な取り組みは運営委員会で共有し、職場環境の改善を推進
- ・経営改善ニュースを発行し、運営委員会で時間当り損益及び各部署の取組状況の共有を実施
- ・アメーバ経営の運用及び病院機能評価の受審準備にあたって、課題の抽出、課題解決への進捗管理等、医療の質の継続的な改善を確保するため、院内で積極的に取り組む職員をQM推進員に任命し、院内での活動を開始

シ 働き方改革への対応

- ・信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直を活用し医師の負担を軽減（年間16回）
- ・当直明け等の職務専念義務免除制度の取組（延べ25人活用）
- ・コンサルタントを活用した医師の超過勤務縮減等の働き方改革の推進
- ・特定看護師及び診療看護師の育成強化
- ・医療の質の向上と業務の効率化・明確化を行うためクリニカルパスの導入を推進
- ・多様な業務に対応するため、医師を始めとして時差出勤を導入
- ・血液浄化療法室の看護師から臨床工学技士へのタスクシフト導入
- ・看護師の夜勤者ユニフォームの導入による超勤削減
- ・医師事務作業補助者を増員、業務内容の拡大化を推進
- ・法令改正に基づく臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士へのタスクシフト推進にあたり職能団体の研修受講の推奨
- ・ホームページ、広報等を通じ町村へ「働き方改革」の取組を周知

ス 収益の確保

○ 病院

- ・ R4 診療報酬改定に伴い新規加算の届出（令和4年4月）

項目	実績
感染対策向上加算 1	11,920,900 円
指導強化加算	503,700 円
外来腫瘍化学療法診療料 1	2,092,000 円

- ・ 患者の入院期間の情報管理を徹底し、DPC入院期間を意識したベッドコントロールにより診療単価を維持

○ 老健

- ・ 収益増の観点から新規加算の届出（令和4年6月）

項目	実績
在宅復帰在宅療養支援加算Ⅱ （老健超強化型）	5,987,360 円

セ 費用の抑制

- ・ 10月より SPD システム運用開始に併せ、在庫管理及び部署毎の使用量の実態把握

ソ 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ 第2種感染症指定医療機関及び重点医療機関として、感染拡大に対応
- ・ 県のコロナ病床確保の要請に応じ、病棟を新型コロナウイルス感染症へ転用、患者を受入れ
- ・ 発熱外来における電話診療の活用
- ・ 町村より要請のあった住民の新型コロナワクチン接種事業に対して医師、看護師等の実務対応へ職員を派遣
- ・ オンライン面会の実施

【感染者等受入数】

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	109 人 延べ 893 日	34 人 延べ 259 日	75 人 634 日
疑い患者受入数	1 人 延べ 2 日	0 人 延べ 0 日	1 人 2 日
計	110 人 延べ 895 日	34 人 延べ 259 日	76 人 636 日

【検査件数等】

検査種類等	実績	前年度実績	対前年度実績
P C R検査	3,486 件	1,804 件	1,682 件
抗原定性検査	229 件	0 件	皆増

抗原定量検査	2,886 件	3,527 件	△641 件
計	6,601 件	5,331 件	1,270 件

【発熱外来受入れ】

区 分	実績	前年度実績	対前年度実績
発熱外来受入れ	3,424 人	2,298 人	1,126 人

【ワクチン接種件数】

項 目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	18 件	847 件	△829 件
医療従事者	929 件	1,799 件	△870 件
計	947 件	2,646 件	△1,699 件

2-4-2 経営指標等

【経営指標】

1 木曽病院 令和4年度実績 ※延患者数には介護医療院を含む

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比	
延患者数	入院	40,126人	47,249人	84.9%	46,839人	85.7%	
	外来	検診等 除く	110,049人	108,522人	101.4%	119,477人	92.1%
		公衆衛 生活動	7,929人	7,948人	99.8%	9,057人	87.5%
新患者数	入院	1,907人	2,544人	75.0%	2,414人	79.0%	
	外来	6,265人	7,416人	84.5%	7,324人	85.5%	
1人1日 当たり 診療単価	入院	38,244円	35,827円	106.7%	36,164円	105.8%	
	外来 (検診等含む)	11,235円	11,706円	96.0%	11,756円	95.6%	
医業収益	入院	1,534,573 千円	1,692,777 千円	90.7%	1,693,872 千円	90.6%	
	外来	1,325,466 千円	1,363,360 千円	97.2%	1,404,598 千円	94.4%	
	合計	2,860,039 千円	3,056,137 千円	93.6%	3,098,470 千円	92.3%	
平均在院 日数		15.8日	21.0日	△5.2日	16.0日	△0.2日	
病床利用 率		60.3%	70.9%	△10.6 ポイント	70.3%	△10.0 ポイント	
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院患者数は、病棟で職員及び患者の新型コロナウイルス感染症発生に伴う入院制限と、県の要請に応じて病棟を新型コロナウイルス感染症へ転用したことにより、述べ患者数、病床利用率とも大きく減少した。 医師の退職や療養に伴い、手術件数が減少し収益は下がったものの、コロナ療養での単価収益が高かったことなどから、1人1日当たり入院診療単価は目標、前年度実績を上回った。 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> 外来患者数は地域人口の減少と、コロナ禍による受診控えの状況が継続していることから、目標及び前年度実績を下回った。 外来医業収益は、透析患者が68人から53人（実人数）へ減少したことによる減収と、発熱外来の患者や電話診療の単価・報酬が低いことなどから目標及び前年度実績を下回った。 						

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度	対前年度比
紹介率	17.0%	16.0%	1.0ポイント	17.0%	0.0ポイント
逆紹介率	31.3%	26.0%	5.3ポイント	31.0%	0.3ポイント
コメント	<p>◆紹介率 ・紹介率は今年度目標値を下げているため、上回ってはいるが紹介患者数自体はほとんど変わらない。</p> <p>◆逆紹介率 ・眼科医師が1名療養休暇を取得、他医療機関への逆紹介が増加した。</p>				

2 木曽病院介護医療院 令和4年度実績

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	5,889人	6,369人	92.5%	6,449人	91.3%
コメント	・長期利用者の退所で利用者数減となったが、ニーズは高く入所申し込みは多数あった。				

3 木曽介護老人保健施設 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
利用者数	入所者	15,684人	15,519人	101.0%	15,684人	100.0%
	通所者	102人	100人	102.0%	23人	443.5%
1人1日 当たり単価	入所	14,013円	11,985円	116.9%	13,036円	107.5%
	通所	9,552円	9,500円	100.5%	10,286円	92.8%
営業収益	入所	189,615千円	186,011千円	102.0%	186,697千円	101.5%
	通所	961千円	951千円	101.0%	78千円	123.2%
コメント	<p>・入所者数 入院や家族都合などによるキャンセルに加えて、新型コロナウイルス集団感染により入所の受入を停止したが、柔軟な対応と調整により、前年同等の利用につなげることができた。また、在宅復帰指標の超強化型算定を維持し、在宅復帰に向けた入退所調整に努めた。</p> <p>・通所者数 新型コロナウイルス感染症対策等により利用者は限定されたものの、毎週3名程度の定期的な受け入れを継続し、前年を上回ることができた。</p>					

【損益計算書】

1 木曽病院

(税抜、単位：千円)

科 目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	4,201,512	4,164,835	36,677	4,572,040	△ 370,528
医業収益	2,981,851	3,155,876	△ 174,025	3,209,906	△ 228,055
運営費負担金収益	789,114	876,107	△ 86,993	897,464	△ 108,350
その他経常収益	430,546	132,852	297,694	464,670	△ 34,124
経常費用 (イ)	4,177,781	4,185,427	△ 7,646	4,179,469	△ 1,688
医業費用	4,042,479	4,042,733	△ 254	4,026,066	16,413
給与費	2,369,790	2,301,248	68,542	2,382,850	△ 13,060
材料費	672,444	689,944	△ 17,500	733,331	△ 60,887
減価償却費	373,290	377,676	△ 4,386	280,742	92,548
経費	619,023	663,728	△ 44,705	621,246	△ 2,223
研究研修費	7,932	10,137	△ 2,205	7,897	35
財務費用	8,104	7,826	278	17,525	△ 9,421
その他経常費用	127,198	134,868	△ 7,670	135,878	△ 8,680
経常損益 (ア-イ)	23,731	△ 20,592	44,323	392,570	△ 368,839
臨時損益 (ウ)	△ 14,093	0	△ 14,093	△ 63,487	49,394
当期純損益 (ア-イ+ウ)	9,638	△ 20,592	30,230	329,083	△ 319,445
病床確保料(エ)	271,504	0	271,504	292,662	△ 21,158
病床確保料を除く当 期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△ 261,866	△ 20,592	△ 241,274	36,421	△ 298,287
コメント	<p>◆医業収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の院内クラスターの発生による入院制限や外来休診、医師療養休暇による眼科手術の抑制などを受け、対前年及び計画値を下回った。 <p>◆医業費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費は外科医師1名の減があったが、コロナ手当、非常勤医師の勤務日数増により、対前年及び計画値を上回った。 ・減価償却費は、医療情報システム等の更新により対前年度比92,548千円の増となったが、医療機器購入の見送りと入札差金の増により計画より4,386千円下回った。 ・経費は、原料価格高騰に伴う光熱水費、燃料費の増加の影響を受けたが、物品の購入や修繕の実施を制限し、必要最低限の執行となるよう努めたこともあり対前年、対計画比ともに下回った。 				

2 木曾介護老人保健施設

(税抜、千円)

科 目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	278,277	267,041	11,236	270,984	7,293
介護老人保健施設収益	220,715	217,698	3,017	218,614	2,101
運営費負担金収益	48,978	46,067	2,911	47,721	1,257
その他経常収益	8,585	3,276	5,309	4,649	3,936
経常費用 (イ)	257,274	254,135	3,139	255,031	2,243
介護老人保健施設費用	245,053	241,728	3,325	240,297	4,756
給与費	173,816	169,434	4,382	168,111	5,705
材料費	16,554	16,137	417	16,728	△ 174
減価償却費	14,505	13,916	589	13,763	742
経費	39,876	42,029	△ 2,153	41,588	△ 1,712
研究研修費	303	212	91	107	196
財務費用	6,612	6,790	△ 178	8,872	△ 2,260
その他経常費用	5,609	5,617	△ 8	5,862	△ 253
経常損益 (ア-イ)	21,003	12,906	8,097	15,953	5,050
臨時損益 (ウ)	△ 20,681	0	△ 20,681	0	△ 20,681
当期純損益 (ア-イ+ウ)	322	12,906	△ 12,584	15,953	△ 15,631
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅超強化型の算定により入所単価が向上した。 ・補助金は長野県社会福祉施設等価格高騰対策支援金75万と木曾町社会福祉施設等価格高騰対策支援金75万円の交付を受けた。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの施設内クラスターの発生を受け、コロナ陽性入所者に対し施設内療養を実施、職員の超過勤務、コロナ対応手当の支給により給与費が増加。 ・外壁アスベスト除去工費を臨時損益に計上。 				

2-5 こども病院

【理 念】

わたし達は、未来を担うこども達とその家族のために、質が高く、安全な医療を行います。

【基本方針】

- 1 こどもと家族の権利の尊重
- 2 療育環境の充実
- 3 チーム医療の実践
- 4 医療従事者の育成
- 5 健全な病院経営

2-5-1 総合評価

【成 果】

ア 高度・専門医療の提供

○外来診療機能の強化

- ・5月に新外来診察室の運用を開始。増加傾向の外来患者への診療体制を強化し、小児アレルギー患者や成人への移行期患者などの高まる診療ニーズに対応
- ・小児の新型コロナウイルス感染者の受入体制を継続し、増設した感染隔離室を活用した感染防止対策の徹底及び検査体制を維持

○小児がん診療体制の強化

- ・4月に小児がんセンターを開設し、長野県の小児がん連携病院として院内の小児がん診療体制を整備
- ・高次脳機能障害フォローアップ体制の強化を図るため、12月23日付けで長野県立総合リハビリテーションセンターとの移行期医療の連携体制構築に向けた協定書を締結
- ・成人診療科と連携したがん医療提供体制の整備に向けて、長野県がん診療連携協議会への参加準備（令和5年4月1日に同協議会へ加入）

○児童精神科の診療体制整備

- ・4月の常勤医師着任に伴い、外来診療やリエゾン体制※等を整備し、多職種連携・チーム医療を推進し、院内外の児童精神科充実のニーズに対応
- ※リエゾン体制：身体疾患で入院中の患者が精神心理面での問題を抱えた場合に、担当各科の医師や看護師等が多職種で連携して支援を行う体制
- ・発達障害専門外来学習会において、県内の幼稚園、小・中学校教諭及び保育士を対象とした「発達に課題のあるこどもへのかかわり方」について講演を実施（受講者数182人）

○オプショナル新生児スクリーニング検査事業の開始

- ・10月から当院の新規事業として、県からの委託事業である先天性代謝異常等検査の追加検査として原発性免疫不全症及び脊髄性筋萎縮症に対するオプショナル新生児スクリーニング検査を開始し、早期診断・早期治療の体制を整備。先天性代謝異常等検査対象者の約90%が同検査を希望し、県内

産科医療機関との良好な連携により高い受検率を実現

令和4年度検査件数 5,685件（初回検査5,595件、再採血検査90件）

○重症心身障害児の側弯症手術の開始

- ・当院での側弯症手術開始に向けて WG を立ち上げ、院内多職種及び信州大学医学部附属病院整形外科とミーティングにより準備を進め、10月から手術を開始（10月～3月に5例実施）

○前年度に開設した各センターの取組推進

〔小児アレルギーセンターの取組推進〕

- ・長野県から「アレルギー疾患医療拠点病院」に指定され、重症・難治性アレルギー疾患患者の診療、地域住民に対する情報提供、アレルギー医療に関わる医療従事者の人材育成、疫学や臨床研究への協力等を実施

人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・県内小学校の教員に対して、アレルギーに関する研修を10回実施 ・外来及び入院時の食物経口負荷試験に関する研修に他院から医師20人受入
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者、学校関係者、保健師などを対象とした小児アレルギー相談対応（相談件数8件） ・10月、11月に市教育委員会との共催による地域住民に対する食物アレルギーの講習を実施（松本・上田）
疫学・臨床研究推進	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に小児科学会地方会で小児アレルギー診療の現状調査結果について発表 ・12月に全国アレルギー疾患医療拠点病院の職員とその家族を対象とした全国疫学調査に参加 ・厚生労働行政推進調査事業免疫・アレルギー疾患政策研究事業「各都道府県におけるアレルギー疾患医療連携体制構築に関する研究」にアレルギー疾患医療拠点病院として研究分担者に参加

〔成人先天性心疾患センターの取組推進〕

- ・日本成人先天性心疾患学会認定の「連携修練施設」として、同学会より「総合修練施設」に認定されている信州大学医学部附属病院と連携し、成人先天性心疾患の診断・治療を行うとともに、人材の育成と臨床研究を支援

診断・治療	<ul style="list-style-type: none"> ・成人先天性心疾患学会が定める症例に対するカテーテル検査19例、カテーテル治療16例を実施 ・県内の成人先天性心疾患症例に対する心臓大血管手術5件を実施 ・他医療機関へ心臓血管外科部長が出張し手術指導を実施（信州大学医学部附属病院3例、長野市民病院1例、佐久医療センター1例）
他施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・信州大学医学部附属病院成人先天性心疾患センター、県内基幹施設循環器グループとの合同カンファランスを7回開催

〔移行期医療支援センターの取組推進〕

- ・小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるため病院全体でサポートする体制を構築。移行期医療支援外来を毎月4枠に増枠（前年度3枠）し、31件の支援を実施

連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県保健・疾病対策課、信州大学医学部附属病院信州がんセンター、当院移行
-----	---

議・研究会	期医療支援センターで共同して移行期医療支援体制検討会を5回開催し、2月に合同でシンポジウム「長野県の移行期医療における専門医療と地域の壁」を開催
就学・就労支援	・小児慢性疾患患者の準備性・社会性を整えるため、小学校入学前、中学卒業前に知能、発達検査を行い、患者の適性に配慮した就学・就労を目指した支援を患者・家族に実施（就労支援：個別相談延べ6人・集団講話（就労支援セミナー）：延べ37人（2回開催）、学習サポート：延べ21人）

○成育女性科外来の取組推進

- ・産科外来で適宜対応していた婦人科診療について院内に周知を行い、月経異常・無月経・月経痛などの症状で悩む患者及びその家族をケアし、治療や治療マネジメントを実施。院内認知が進み紹介元診療科も拡大した結果、外来患者数163件（前年度131件）の利用があり、新規患者の紹介数が増加

○最近の小児患者のニーズに対応した診療体制の継続

- ・あたまの形外来

広報やSNSなどを通じた頭蓋変形に対する治療有効性、県内外の関連施設に対する当院での活動に対する認知度が上がり新規患者数が増加

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
患者数	686人	561人	125人
矯正用ヘルメット作成数	105件	71件	34件

イ 小児高度救急医療の提供

- ・救急車やドクターヘリによる小児救急患者の受入及びドクターカーの出勤により長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を提供

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
小児緊急入院患者数	857人	842人	15人

- ・高度小児医療機能とチーム医療を発揮し、6月1日に県内初の未成年患者からの臓器提供を実施

ウ 在宅医療の提供

- ・医療ケアを自宅で継続する患者への訪問診療の充実を図り、今年度の新規患者数は訪問診療4人、訪問リハビリ4人。訪問リハビリにて症状に合わせたポジショニングや移動支援を行い、終末期をできるだけ在宅で生活できるよう支援

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
訪問診療・リハビリ	51件	60件	△9件	44件	7件

エ 産科医療の提供

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響から回復し、対計画、対前年ともに増加

項目	実績	年度計画	対年度計画	前年度実績	対前年度実績
分娩件数	312件	300件	12件	293件	19件

オ 地域医療連携の推進

○病院将来構想の確立に向けた検討

- ・小児疾患動向の変化や地域から当院に期待される診療ニーズ等を踏まえ、更なる診療・ケアの質向上を図るため、病床運用の効率化と重点化を目的とした病棟再編成・集約化を実施（2月より運用病床163床へ変更）
- ・病院将来構想検討を進めるため患者及び家族との座談会を2月25日に開催（患者及び家族7組10人、一般107人が参加）

カ 地域の医療機関と連携した高度医療機器の共同利用

○放射線治療の拡充

- ・地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携し成人を対象とした放射線治療を実施（リニアック更新のため7月から12月中旬まで稼働停止となり件数が減少）

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
放射線治療人数	33人	86人	△53人
放射線治療算定件数	788件	1,882件	△1,094件
リニアック稼働額	10,996千円	26,745千円	△15,749千円

※人数は延べ紹介数。件数は延べ照射回数と治療計画数の合算。稼働額は成人・小児の合算

○R I 検査機器による成人を対象にした認知症検査の実施

- ・成人対象の認知症検査について、近隣医療機関からの紹介を受けて45件実施（前年度21件）

キ 医療従事者の養成と専門性の向上

○県内医療に貢献する医師の確保・養成

県内医療に貢献する医師の確保	・次年度採用専攻医に関し、オンラインによる病院見学会を開催し7人が参加
医師の養成、実習受入	・専攻医教育に関して、Webレクチャーや救急外来振り返りの会、救急シミュレーション教育を実施 ・信州大学医学部の講義や実習受入を継続（信州大学17人、順天堂大学1人、自治医科大学1人） ・初期研修医の研修受入（信州医療センター1人、相澤病院3人）
職員の養成と専門性の向上	・看護部では、認定看護管理者教育課程ファーストレベル2人、セカンドレベル2人、感染管理認定看護師教育課程1人受講修了 ・特定行為研修を1人が受講修了し、今後胃瘻外来等から業務開始予定

○韓国ソウル国立大学病院との国際交流

- ・7月7日にソウル国立大学病院小児病院から6人を当院に迎え、両国の病院長により交流推進に向けた覚書を締結。また、1月12日～14日に当院から7人がソウル国立大学病院小児病院及びアサンメディカルセンターへ視察研修

○令和4年度二国間セミナー支援事業（トゥルク大学：フィンランド）

- ・8月8日～11日にフィンランドにおいてトゥルク大学と当院との二国間セミナーを実施し、当院から

8人が参加（1人はWebで参加）。10月14日に日本学術振興会に最終報告書を送付。新生児科では訪問によって体験した先進の”Family Centered Care”の利点を本院で生かすべく取り組みを開始

ケ 医療の質の向上に関すること

○患者サポートセンターの取組推進

- ・上半期に脳神経外科、泌尿器科、整形外科、下半期に耳鼻科、循環器科（心臓カテーテル検査）で新規介入を開始。また、10月から開始した側弯症手術の入退院支援を開始
- ・入退院支援加算実績

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
入院時支援加算 1 及び 2	78 件	10 件	68 件
入退院支援加算 1	834 件	696 件	138 件
入退院支援加算 3	209 件	167 件	42 件

○先端技術の活用

- ・来院の必要が無い患者に対する電話診療による処方箋を発行する診療体制を継続
- ・面会制限で患児と面会できない家族のためのオンライン面会システム運用を継続
- ・10月からE-ラーニングシステムを用いた動画研修によるオンライン産前保健指導を開始
- ・1月から形成外科でオンライン診療を開始し、県外等遠方からの受診患者の利便性向上を図るとともに情報機器を用いた診療に係る施設基準を取得（専用の遠隔診療システムを使用）

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
電話診療実施件数	448人	271人	177人
オンライン面会	25件	57件	△32件
オンライン診療	12人	—	12人

○連携大学院教育による研究活動の推進

- ・信州大学との協定に基づく連携大学院教育による職員の研究活動を推進し、専門性の高い医療従事者（医師10人、検査技師2人）を養成。学生数は新規進学者4人を加え合計12人に増加（内4人卒業）

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
入学者数	4 人	3 人	1 人
セミナー開催	12回	8 回	4 回

コ 働き方改革への対応

○医師の働き方改革への対応

- ・9月に改めてコンサルタント業務を委託し、委託者を交えた診療部各科とのミーティング実施等により、医師労働時間短縮計画の策定及び提出の準備を実施
- ・医師事務作業補助者を13人配置し、医師の負担軽減を推進

○タスクシフト・シェアの推進

- ・医師から多職種へのタスクシフトを推進するため、医療技術職員等の研修受講を支援

○職員の勤務環境の改善

- ・新生児病棟看護師の夜間休憩時間確保のため、4月から病棟保育士の夜勤を開始
- ・育児短時間制度、育児部分休業制度及び育児時間を医師1人、看護職員39人、薬剤師2人、理学療法

士1人、臨床検査技師2人、事務員1人の合計46人が活用

サ 経営改善、経費削減の取組

○診療報酬改定に対応した収益増加の取組

- ・新設・拡大された施設基準や加算項目の算定強化を図るため、多職種連携やチーム医療体制の強化、必要な研修受講等を推進

(増収例：看護補助体制充実加算 1,291 千円/年、周術期薬剤管理加算 935 千円/年等)

○費用の抑制

- ・診療材料の価格交渉の強化及び同種同等品への切替により 9,008 千円削減、保守契約や賃貸借契約の仕様見直しにより委託料と賃借料 5,187 千円削減等、コスト削減を実施

シ 新型コロナウイルス感染症への対応

○重点医療機関として小児重症患者受入体制を継続

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
感染者受入数	55 人 延べ 247 日	3 人 延べ 11 日	52 人 236 日

○検査件数

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
P C R 検査	3,124件	1,082件	2,042件

○ワクチン接種件数

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
住民	221件	171件	50件
医療従事者	927件	1,693件	△766件
計	1,148件	1,864件	△716件

2-5-2 経営指標等

【経営指標】

こども病院 令和4年度実績

項目	区分	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
延患者数	入院	46,556人	50,543人	92.1%	49,891人	93.3%
	外来	67,842人	70,774人	95.8%	67,384人	100.6%
新患者数	入院	3,749人	3,821人	98.1%	3,840人	97.6%
	外来	3,989人	3,941人	101.2%	3,795人	105.1%
1人1日 当たり 診療単価	入院	111,954円	107,600円	104.0%	104,758円	106.9%
	外来	12,116円	13,740円	88.2%	12,945円	93.6%
医業収益	入院	5,212,130 千円	5,438,420 千円	95.8%	5,226,470 千円	99.7%
	外来	821,965 千円	972,442 千円	84.5%	872,288 千円	94.2%
	合計	6,034,095 千円	6,410,862 千円	94.1%	6,098,758 千円	98.9%
平均在院日数		12.7日	13.1日	△0.4日	12.7日	±0日
病床利用率		66.3%	71.1%	△4.8ポイント	69.7%	△3.4ポイント
コメント	<p>◆入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者数 新型コロナウイルス流行に伴う患者数の減（受診控え、予定入院キャンセルの影響等）、長期入院患者数の減等により、延入院患者数は対計画92.1%（△3,987人）、新入院患者数は対計画98.1%（△72人）となった。 ・入院単価 診療報酬改定で新設・拡大された施設基準や加算項目の算定強化、DPC係数の向上、高額手術の増加等により、対計画、対前年ともに上回った。 ・平均在院日数 長期入院患者の減により、対計画で短縮した。 ・病床利用率 新型コロナウイルス流行に伴う患者数の減、長期入院患者数の減により、対計画、対前年度ともに下回った。 <p>◆外来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来患者数 新外来患者数は対計画101.2%（+48人）と計画に達したが、リニアック更新工事による放射線治療の休止期間（7月～12月）の影響もあり、延外来患者数は対計画95.8%（△2,932人）と計画を下回った。 ・外来単価 リニアック装置更新に伴う放射線治療の休止、再診料の減（乳幼児感染対策管理加算の廃止）等により対計画、対前年ともに下回った。 					

項目	実績	年度計画	対年度計画比	前年度実績	対前年度比
紹介率	74.6%	71.0%	3.6 ^ホ イト	69.0%	5.6 ^ホ イト
逆紹介率	84.4%	78.0%	6.4 ^ホ イト	78.6%	5.8 ^ホ イト
コメント	<p>◆紹介率、逆紹介率 ・紹介率、逆紹介率ともに、地域医療支援病院の要件（紹介率65%以上かつ逆紹介率40%以上）を満たし対計画、対前年を上回った。</p>				

【損益計算書】

こども病院

(税抜、単位：千円)

科目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	8,423,578	8,506,792	△ 83,214	8,488,965	△ 65,387
医業収益	6,167,517	6,491,215	△ 323,698	6,192,369	△ 24,852
運営費負担金収益	1,760,806	1,768,230	△ 7,424	1,793,575	△ 32,769
その他経常収益	495,255	247,347	247,908	503,021	△ 7,766
経常費用 (イ)	8,515,175	8,551,628	△ 36,453	8,443,283	71,892
医業費用	8,201,924	8,234,531	△ 32,607	8,109,542	92,382
給与費	4,925,457	4,812,516	112,941	4,764,386	161,071
材料費	1,316,126	1,376,537	△ 60,411	1,367,709	△ 51,583
減価償却費	702,926	769,615	△ 66,689	763,017	△ 60,091
経費	1,215,285	1,236,530	△ 21,245	1,188,053	27,232
研究研修費	42,130	39,333	2,797	26,378	15,752
財務費用	65,070	65,503	△ 433	83,616	△ 18,546
その他経常費用	248,182	251,594	△ 3,412	250,125	△ 1,943
経常損益 (ア-イ)	△ 91,597	△ 44,836	△ 46,761	45,681	△ 137,278
臨時損益 (ウ)	△ 153	0	△ 153	△ 8,086	7,933
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 91,750	△ 44,836	△ 46,914	37,595	△ 129,345
病床確保料(エ)	192,941	0	192,941	213,710	△ 20,769
病床確保料を除く当期純損益(ア-イ+ウ-エ)	△ 284,691	△ 44,836	△ 239,855	△ 176,115	△ 108,576

<p>コメント</p>	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院では、新型コロナウイルス流行に伴う患者数の減、長期入院患者数の減等により入院患者数が減少し、外来では放射線治療の休止、再診料の減等の影響があり、医業収益は対計画で△323,698千円下回った。 <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費は、人事委員会勧告の影響、処遇改善評価手当の増加等により計画を上回った。材料費は、医薬品費で高額薬剤使用の減等により減少し、診療材料費は、高額な手術件数の増、オプション的新生児スクリーニング検査開始に伴う検査試薬の増等により増加したが、材料費全体では計画を下回った。減価償却費は、電子カルテ減価償却終了等により計画を下回った。経費は、原油価格高騰に伴い光熱水費・燃料費で増加（前年比+49,786千円）したが、経費全体では計画を下回った。 <p>この結果、経常費用は計画を△36,453千円下回った。</p> <p>◆純損益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当期純損益は、病床確保料を含めた場合△91,750千円の損失、病床確保料を除く場合△284,691千円の損失となった。
-------------	--

2-6 信州木曾看護専門学校

【理 念】

地域医療、高度・専門医療、県民の視点に立った医療を提供する公的使命をもつ長野県立病院機構立の学校として、看護の社会的役割を担うことのできる専門職者の育成を目指します。恵まれた自然と歴史ある環境のもとで、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育み、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成します。さらに、生涯にわたって学び続ける態度を身につけ、地域における保健・医療・福祉の発展充実に貢献する人材を育成していきます。

【基本方針】

- 1 看護の対象である人間を総合的に理解する豊かな人間性と幅広い視野を養う。
- 2 科学的思考に基づき、対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 保健・医療・福祉の領域において他職種等と協働できる基礎的能力を養う。
- 4 看護職者として主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

2-6-1 総合評価

【成 果】

- ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成
 ・地域性を活かした授業や課外活動により、地元地域への愛着を育む

項 目	実 績	年 度 計 画	対計画 増減
実施件数	9件	9件	計画どおり
内容	① 地域で生活する人を知る実習 ② 看護の日の活動 ③ 里山歩き（環境論 1年） ④ 森林セラピー（環境論 1年） ⑤ ほおば巻きづくり（食育学習 1年） ⑥ そば打ち（食育学習 2年） ⑦ 盲・ろう学校訪問（人間関係論 1年） ⑧ 第8回学校祭 ⑨ アイスキャンドル制作 （町のイベント参加）	① 地域で生活する人を知る実習 ② 看護の日の活動 ③ 里山歩き（環境論 1年） ④ 森林セラピー（環境論 1年） ⑤ ほおば巻きづくり（食育学習 1年） ⑥ そば打ち（食育学習 2年） ⑦ 盲・ろう学校訪問（人間関係論 1年） ⑧ 第8回学校祭 ⑨ アイスキャンドル制作 （町のイベント参加）	

- ・基礎的な看護技術の習得と実践力の向上を図る工夫
 ベッドメイキングの技術教授を工夫（2年生から1年生へ伝授）

令和4年度最終合格率	令和3年度最終合格率	対前年度増減
100%	100%	前年と同じ

- ・木曾病院をはじめとする臨地実習施設と連携を取り実習体制の整備
 各実習病院と連携しながら領域実習（成人看護学・精神看護学・老年看護学・母性看護学・小児看

護学・在宅看護論)、統合実習を8クール終了した。新型コロナウイルス感染症の影響で一部学内実習となったが、概ね予定どおり実施できた。

イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上

・教務主任、専任教員の育成

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
放送大学 在学	3人	3人	計画どおり	3人	前年と同じ
その他大学進学	1人	1人	計画どおり	1人	前年と同じ
学会等への参加	2人	1人	1人	0人	1人

ウ 学生確保に向けた取り組み

・令和5年度入学試験の状況

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
出願	40人	—	—	54人	△14人
受験	39人	—	—	51人	△12人
合格	29人	—	—	26人	3人
入学	23人	30人	△7人	21人	2人

・令和5年度入学生の出身地

上伊那	南信州	木曾	松本	その他県内	県外	男	女	計
5人	2人	3人	7人	3人	3人	3人	20人	23人

・高校訪問、出前授業、ホームページ、オープンキャンパスを通じた認知度の向上

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
高校訪問数	62校	61校	1校	65校	△3校
ガイダンス・模擬授業	12回	13回	△1回	13回	△1回
オープンキャンパス参加者	3回 132人 (保護者含む)	3回 130人	計画どおり開催 2人	2回 113人 (保護者含む)	1回 19人
ホームページ ブログ更新	42回	41回	1回	41回	1回
インスタグラム での情報発信	投稿20回	10月開始	—	0回	皆増

エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充実

・国家試験合格状況と就職・進学状況

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
出願	28人	—	—	24人	4人
受験	28人	—	—	24人	4人
合格	28人	—	—	24人	4人
合格率	100.0%	100.0%	計画どおり	100.0%	2年連続

就職					進学
県内 (うち機構病院8人)				県外	
	南信州	木曾	松本	その他県内	
23人	8人	5人	7人	3人	4人
					1人

・入学前学習から入学後の学習習慣につながるサポート

入学前に課題を提示し学習への動機付け、入学後に知識確認テストの実施

・国家試験（以下国試）対策の推進及び受験のサポート

全国模擬試験・過去問題の実施など	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
2年生	3回	4回	△1回	4回	△1回
3年生	33回	28回	5回	28回	5回

・模擬試験以外のサポート

学年	内容	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
2年生	国試ガイダンス	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
	解剖見学事前学習	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
3年生	実習中 15分ドリル	実習中はほぼ毎日	実習中は毎日	ほぼ計画どおり	実習中はほぼ毎日	前年と同じ
	業者の学習講座	1回	1回(春)	計画どおり	1回	前年と同じ
		1回	1回(冬)	計画どおり	1回	前年と同じ
	特別講座	8回	3回	5回	2回	6回
	土曜開校	8日	9日	△1日	9日	△1日

オ 卒業生と在校生の交流の場づくりとフォローアップ

・ホームカミングデイの実施

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
ホームカミングデイ	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

期日 6月25日(土)

参加人数(卒業生) 13人(うちオンライン3人)

カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築

・地元行事への参加を通じて交流を深めて学校の認知度をあげる

項目	実績	年度計画	対計画
実施件数	3件	8件	△5件
内容	4月 学生宿舍地区の春祭り(中止) 5月 木曽町学生歓迎会(中止) 6月 木曽郡ふれあいスポーツ交流会(中止) 9月 林業大学校との連携事業(中止) 9月 木曽青峰高校との連携事業(山歩き) 10月 学校所在地の文化祭参加 11月 木曽病院防災訓練(コロナまん延で不参加) 11月 木曽病院祭(中止) 2月 雪灯りの散歩道	4月 学生宿舍地区の春祭り 5月 木曽町学生歓迎会 6月 木曽郡ふれあいスポーツ交流会 9月 林業大学校との連携事業 10月 学校所在地の文化祭参加 11月 木曽病院防災訓練 11月 木曽病院祭 2月 雪灯りの散歩道	
コメント	*新型コロナウイルス感染症のため一部行事が中止となり参加できなかった。		

キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善

- ・学校評議会を通して意見収集
- ・自己点検・自己評価を行いホームページで公表

項目	実績	年度計画	対計画	前年度実績	対前年度実績
学校評議会の開催	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ
自己点検・自己評価の公表	1回	1回	計画どおり	1回	前年と同じ

2-6-2 経営指標等

【損益計算書】

信州木曾看護専門学校

(税抜、単位：千円)

科目	R4累計 a	R4計画 b	対計画 増減 a-b	R3累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	158,857	158,209	648	157,498	1,359
看護師養成所収益	16,702	18,556	△ 1,854	18,398	△ 1,696
運営費負担金収益	125,411	122,604	2,807	122,635	2,776
その他経常収益	16,745	17,049	△ 304	16,465	280
経常費用 (イ)	173,153	161,754	11,399	152,470	20,683
看護師養成所費用	171,284	160,408	10,876	150,725	20,559
給与費	129,028	119,152	9,876	110,036	18,992
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	11,001	11,212	△ 211	10,531	470
経費	30,892	29,527	1,365	28,711	2,181
研究研修費	362	517	△ 155	1,447	△ 1,085
財務費用	18	0	18	2	16
その他経常費用	1,851	1,346	505	1,743	108
経常損益 (ア-イ)	△ 14,296	△ 3,545	△ 10,751	5,028	△ 19,324
臨時損益 (ウ)	0	0	0	0	0
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 14,296	△ 3,545	△ 10,751	5,028	△ 19,324
コメント	<p>◆経常収益</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生宿舎退去に伴う貸付料減等により、計画を下回った <p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給与費は、教員の異動に伴う増等により、計画を上回った。 ・経費は、高熱水費高騰等による増により、計画を上回った。 				

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

2-7 本部研修センター・本部事務局

2-7-1 総合評価

【成果】

ア 地域医療構想への対応

- ・地域医療構想の実現に向けた公立病院経営強化ガイドラインへの対応
総務省開催の説明会に、県医療政策課とともに参加し、公立病院経営強化ガイドラインへの対応を協議

イ 県内医療に貢献する医師の確保・養成に係る取組

- ・医学生や初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション教育の充実
医学生6年生のシミュレーション教育において、初期研修医シミュレーション教育のプログラムへ参加（前年度までは見学のみ）

区分	対象		実績	前年度実績	対前年度実績
シミュレーション教育	医学生	回数	28回	28回	0回
		参加者数	47人	62人	△15人
	初期臨床研修医	回数	21回	24回	△3回
		参加者数	74人	80人	△6人
シミュレーション体験	医学生	回数	5回	8回	△3回
		参加者数	5人	8人	△3人

- ・医師確保推進のための医学生対象長野県立5病院 Joint セミナーの開催
新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインを使用した事前動画配信、ライブ配信により開催

名称	開催方法	実績	前年度実績	対前年度実績
長野県立5病院 Joint セミナー	ライブ配信	3大学13人	6大学9人	△3大学、4人

ウ 機構職員の養成に係る取組

- ・シミュレーション教育指導者委員会による指導者連携と教育の充実
教育指導者の育成及び研修の充実を目的に委員会を3回開催。委員会では、シミュレーション教育シナリオ情報共有事業として、登録された各施設シナリオの発表・意見交換を実施
委員は、自己研鑽を兼ねて、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにファシリテータとして参加

委員会の検討内容
<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション教育指導スキルアップシリーズにおける講演内容の検討及びファシリテータ打合せ ・シナリオ情報共有事業（各施設のシミュレーション教育シナリオを登録し、機構全体で共有するもの）で登録されたシナリオ（5本）の意見交換等 ・4年度開催のシミュレーション教育指導者研究会幹事会との連携

・全職員を対象とした研修の充実

職員の知識・技術・資質の向上のため、課程別研修、選択研修及び職種ごとの専門研修を実施。なお、集合研修とオンライン研修を組み合わせる計画し、集合研修は基本的な感染対策の徹底に特に留意して実施

区 分		実績	前年度実績	対前年度実績
研修（課程別・選択・専門）	回数	26 件	22 件	4 件
	参加者数	840 人	766 人	74 人

・新規採用職員等の体験研修の充実

事務部、薬剤部の新規採用職員 14 人が、配属先病院において多職種体験研修を実施
勤務 2 年目事務職員等 3 人が、配属先以外の病院において他病院体験研修を実施

・指定研修機関として特定行為ができる看護師の養成（信州）及び特定行為研修内容と修了後の活用の検討

受講生の募集を県立病院機構以外の看護職員にも拡大し、地域の医療人材を育成
看護部長打ち合わせ会で修了後の活用について検討、各病院における修了者の支援体制について情報共有を行い、活用を推進

来年度の研修内容について、コアメンバーで検討を行い、現状の区分での開催を決定

期別	研修期間	特定行為研修内容	受講者
第 1 期	令和 2 年 10 月～ 令和 3 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 * 内容は下記のとおり	信州 2 人 阿南 1 人 木曾 2 人
第 2 期	令和 3 年 10 月～ 令和 4 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 * 内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連】	在宅 木曾 1 人 こども 1 人 血糖 信州 3 人 木曾 1 人
第 3 期	令和 4 年 10 月～ 令和 5 年 9 月	【在宅・慢性期パッケージ】 * 内容は下記のとおり 【血糖コントロールに係る薬剤投与 関連・栄養及び水分管理に係る薬剤 投与関連】 【栄養及び水分管理に係る薬剤投与 関連】	在宅 機構外 3 人 血糖・栄養水分 信州 2 人 阿南 1 人 栄養水分 信州 3 人 木曾 1 人

* 内容：呼吸器（長期呼吸療法に係るもの関連）、ろう孔管理関連、創傷管理関連、
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の 4 区分

エ 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献に係る取組

・長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会発表会の開催

シミュレーション教育を活用した研修の実施と研究に取り組み、長野県内医療従事者の技術水準向

上に貢献することを目的に、4月1日に研究会を設立

12月10日に第1回目となる研究会発表会を会場（こども病院）とオンラインを併用したハイブリッド形式により開催

名 称	開催方法	実 績
長野県医療従事者シミュレーション教育指導者研究会	ハイブリッド	13施設42人参加（7施設7演題発表）

- ・機構外の医療機関等も含むスキルスラボ、シミュレータの利用促進

信州医療センターの院外広報誌に、シミュレータ貸出しの問い合わせフォームなど「研修センターの取り組み紹介」を掲載（須坂市、高山村、小布施町全戸および各関係医療機関に配布）

【スキルスラボ及びシミュレータ使用実績】

区 分		実績	前年度実績	対前年度実績
スキルスラボ	使用回数	428回	505回	△77回
	利用者数	2,790人	2,851人	△61人
シミュレータ	使用回数	285回	400回	△115回
	利用者数	2,180人	2,409人	△229人

- ・機構外の医療機関等も対象としたシミュレーション研修の実施

研修名	開催時期	参加者数
スキルアップシリーズ①②（オンライン研修） ※スキルアップシリーズ③（集合研修）	8月～11月	機構内外 ① 25人(他に聴講者9人) ② 25人(他に聴講者8人) ③ 25人
シナリオブラッシュアップ講座（オンライン研修）	3月	機構内外 13人
病院等への講師派遣	5月～11月	6件 25人
学校、福祉施設等への講師派遣	4月～2月	12件 211人

オ 医療の質の向上に係る取組

- ・医療安全相互点検の実施

5病院を各病院の医療安全管理者等で点検、評価を実施。（再点検項目については、点検、評価を行った病院において、すべて改善）

- ・医療安全管理研修会の開催

コロナ禍で中止していた医療安全管理者研修について、職員間のコミュニケーションをテーマとしてWeb方式で開催。県立病院の職員及び総合リハビリテーションセンターの職員並びに県内病院の医療安全管理者を対象に、長野県と共催で、「医療の質を支える医療安全文化の醸成」をテーマに研修会を開催。

- ・本部画像診断センターの取組

県立病院の画像診断体制を強化するため、こども病院内に開設している本部画像診断センターで

木曾病院からの依頼に基づき画像診断を実施

- ・ 県立病院の担う医療、各種データ、研究成果等を網羅した「機構年報」の発刊
1月に発刊し、県内関係機関に送付

カ 職員の勤務環境の向上

- ・ 看護部における医療の質と経営的な視点を両立させる適正な人数の検討
適正配置を求め続ける組織文化を醸成するため、副看護部長が看護師長の教育を実施
- ・ 各病院と協力し、RPA（ロボットによる業務自動化）などによる事務効率化の研究
8月に木曾病院及びこども病院と信州大学を訪問し、RPAの活用状況の見学を実施。本部事務局においてもRPA（UiPath）を11月に導入。3月まで本部において試行を実施
- ・ 柔軟な働き方の研究
業務効率化や自己研鑽のより一層の促進などを目的に、10月から本部において週休3日制の試行を実施

キ 職員の心身の健康保持及び増進

- ・ 保健師及び相談員による巡回健康相談を実施
- ・ ストレスチェック及びメンタルヘルス巡回相談を実施しメンタル疾患を早期に把握

項目	実績	前年度実績	対前年度実績
新規採用職員研修（メンタルヘルス） 〔保健師〕	1回 (87人)	1回 (72人)	前年と同じ (15人)
メンタルヘルス巡回相談(新規採用職員等対象)〔保健師〕	各所属3回 (226人)	各所属3回 (216人)	前年と同じ (10人)
健康(メンタルを含む)巡回相談(全職員対象)〔保健師〕	各所属3回 (284人)	各所属3回 (263人)	前年と同じ (21人)
過重労働による健康障害防止のための面接指導〔産業医〕	各所属で実施 (7人)	各所属で実施 (9人)	前年と同じ (2人)
ストレスチェック(全職員対象)	1回 (1,647人)	1回 (1,679人)	前年と同じ (△32人)

ク 経費削減の取組

- ・ 病院と機構本部が連携した卸業者との価格交渉の実施等による医薬品費の削減
コンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、4月1日に遡って交渉後単価を適用し、医薬品費を18,580千円(合計金額)削減

【遡及額】

(税抜 単位：千円)

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
7,584	818	836	4,345	4,997	18,580

- 外部委託検査費の削減

コンサルタント等と連携した外部委託検査の価格交渉を行い、7月1日から交渉後単価を適用し外部委託検査費を年間で9,982千円（合計金額）削減

【削減額】

（税込 単位：千円）

信州	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	合計
4,071	1,319	678	1,875	2,039	9,982

ケ コンプライアンスの推進と適切な情報管理

- 内部監査の実施

病院等を対象とし、「職員の特定個人情報の管理」について、担当者等からの聞き取り及び現場確認による監査を実施

- 各種研修会の開催

「汚職」及び「パワーハラスメント」をテーマにコンプライアンス研修をeラーニングにて開催

- 情報セキュリティ対策

各病院の情報セキュリティ対策について、外部コンサルタントに委託して調査し、セキュリティ対策上の課題の洗い出しを実施

コ 施設整備及び医療機器に関する事項

- 機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、現状把握等を実施

サ 新型コロナウイルス感染症に係る対応

- 県との連携体制強化及び迅速かつ適正な医療提供体制の調整等を図るため、看護職員1人を県（感染症対策課）に派遣研修（令和4年3月1日～令和5年3月31日）
- 本部事務局及び本部研修センター職員（計24人）による信州医療センター正面玄関前での検温当番（交代制）の応援

2-7-2 経営指標等

【損益計算書】

本部研修センター・本部事務局

(税抜、千円)

科 目	R4 累計 a	R4 計画 b	対計画 増減 a-b	R3 累計 c	対前年度 増減 a-c
経常収益 (ア)	43,448	42,379	1,069	43,585	△ 137
運営費負担金収益	42,149	41,912	237	38,233	3,916
その他経常収益	1,299	467	832	5,352	△ 4,053
経常費用 (イ)	367,414	422,268	△ 54,854	388,194	△ 20,780
一般管理費	361,496	411,302	△ 49,806	383,424	△ 21,928
給与費	276,437	318,138	△ 41,701	304,739	△ 28,302
材料費	0	0	0	0	0
減価償却費	30,975	30,792	183	37,173	△ 6,198
経費	51,229	53,699	△ 2,470	39,003	12,226
研究研修費	2,855	8,673	△ 5,818	2,509	346
財務費用	149	286	△ 137	207	△ 58
その他経常費用	5,769	10,680	△ 4,911	4,563	1,206
経常損益 (ア-イ)	△ 323,966	△ 379,889	55,923	△ 344,609	20,643
臨時損益 (ウ)	0	0	0	△ 3	3
当期純損益 (ア-イ+ウ)	△ 323,966	△ 379,889	55,923	△ 344,612	20,646
コメント	<p>◆経常費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究研修費は、新型コロナウイルスの影響による研修中止・内容変更により対計画で減少した。 ・人員の減により給与費は対計画・対前年ともに減少した。 				

<参考> 数値目標に対する達成状況及び主な経営指標

主要指標（対年度計画比）

（単位：％、日）

項 目		R 4 年度 実績 (a)	R 4 年度 計画 (b)	対計画比 (a) - (b)	備 考		
医 業 収 入 指 標	病 床 利 用 率	信州医療センター	64.4	75.0	△ 10.6	H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働病床数264－地域包括49）に基づき算出	
		こころの医療センター駒ヶ根	72.7	81.1	△ 8.4	H23.1～新病棟129床に基づき算出	
	平 均 在 院 日 数	阿南病院	54.9	56.0	△ 1.1	H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床、R2.4～同70床に基づき算出	
		木曽病院	60.3	70.9	△ 10.6	H25.4～運用病床数186床、H30.4～同159床、R2.3～151床、R4.6～同149床に基づき算出	
		こども病院	66.3	71.1	△ 4.8	H25.10～運用病床数180床、R5.2～同163床に基づき算出	
	収 支 指 標	経常収支比率	101.9	100.0	1.9		
		医 業 収 支 比 率	信州医療センター	82.6	86.3	△ 3.7	
			こころの医療センター駒ヶ根	62.9	63.9	△ 1.0	
			阿南病院	57.3	54.7	2.6	
			木曽病院	73.8	78.0	△ 4.2	
こども病院	75.2		78.8	△ 3.6			
医 療 材 料 費 比 率	信州医療センター	30.0	28.4	1.6			
	こころの医療センター駒ヶ根	5.3	5.9	△ 0.6			
	阿南病院	15.3	14.6	0.7			
	木曽病院	21.4	20.7	0.7			
	こども病院	21.0	20.8	0.2			

【主要指標の算定方式】

- 病床利用率 (延入院患者数－退院患者数) ÷ (病床数 × 365日) × 100
- 平均在院日数 在院患者延日数 ÷ { (新入院患者 + 新退院患者数) ÷ 2 }
- 経常収支比率 経常収益 ÷ 経常費用 × 100
- 医業収支比率 医業収益 ÷ 医業費用 × 100
- 医療材料費比率 医療材料費 (薬品費 + 診療材料費) ÷ 医業収益 × 100

* 経常収支比率は機構全体のもの

指標：延患者数

(単位：人)

病 院		区 分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信 州	入 院	計 画	91,051	90,261	90,432	78,726	79,707
		実 績	90,876	88,977	76,307	75,716	72,158
	外 来 (全体)	計 画	121,155	123,535	117,462	110,750	107,092
		実 績	120,801	120,749	111,308	119,439	128,931
	外 来 (検診等を除く)	計 画					
		実 績	108,491	105,945	94,382	101,530	110,312
駒ヶ根	入 院	計 画	37,668	38,228	38,228	37,316	38,726
		実 績	37,515	37,400	34,779	33,708	34,725
	外 来	計 画	41,310	37,200	37,510	38,720	40,125
		実 績	40,051	41,189	39,037	38,937	39,117
阿 南	入 院	計 画	21,500	21,300	15,980	15,230	15,168
		実 績	19,272	17,053	14,680	15,149	14,826
	外 来 (全体)	計 画	48,988	49,254	48,080	46,440	40,225
		実 績	47,667	46,882	47,565	53,198	48,529
	外 来 (検診等を除く)	計 画					40,225
		実 績	41,678	41,010	41,280	39,572	38,846
木 曾	入 院	計 画	46,107	49,037	47,473	40,620	47,249
		実 績	48,709	43,681	40,782	46,839	40,126
	外 来 (全体)	計 画	129,256	125,475	124,233	116,929	108,522
		実 績	127,418	125,512	109,849	119,477	117,978
	外 来 (検診等を除く)	計 画					100,574
		実 績	120,424	118,321	103,849	110,420	110,049
こども	入 院	計 画	52,797	54,675	54,573	51,804	50,543
		実 績	55,723	52,647	49,519	49,891	46,556
	外 来	計 画	63,113	66,557	69,638	67,716	70,774
		実 績	64,946	66,776	64,261	67,384	67,842

指標：1人1日当たり診療単価

(単位：円)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
信州	入院	計画	42,204	42,311	42,964	45,073	50,372
		実績	41,785	43,532	49,596	51,132	53,398
	外来	計画	12,800	12,800	17,300	18,421	18,200
		実績	13,042	14,887	16,096	16,020	16,180
駒ヶ根	入院	計画	27,150	27,260	27,260	27,500	27,629
		実績	27,093	27,432	28,258	28,075	29,137
	外来	計画	6,545	6,539	6,750	6,920	7,122
		実績	6,747	6,986	7,029	6,847	7,297
阿南	入院	計画	29,455	28,357	31,613	32,305	32,486
		実績	28,373	28,291	29,671	32,887	34,316
	外来	計画	6,821	6,731	8,125	7,788	8,874
		実績	6,910	7,066	8,972	6,847	8,250
木曾	入院	計画	37,217	35,659	35,272	36,398	35,827
		実績	35,594	37,189	36,326	36,204	38,244
	外来	計画	10,965	10,654	11,500	12,475	12,563
		実績	10,601	10,040	11,664	11,756	11,235
こども	入院	計画	96,367	97,411	101,000	109,055	107,600
		実績	96,687	102,667	105,847	104,758	111,954
	外来	計画	12,000	12,700	13,230	13,340	13,740
		実績	12,735	12,681	13,081	12,945	12,116

指標：医療材料費／医業収益比率

(単位：%)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	計画	25.2	26.8	25.6	28.0	28.4
	実績	24.3	27.4	28.9	28.8	30.0
駒ヶ根	計画	9.3	6.1	6.1	6.2	5.9
	実績	5.7	5.9	6.4	5.8	5.3
阿南	計画	16.1	16.6	16.3	16.6	14.6
	実績	15.5	16.1	16.4	13.7	15.3
木曾	計画	23.5	23.0	22.4	22.2	20.7
	実績	22.4	21.4	22.9	21.7	21.4
こども	計画	20.0	20.0	20.9	22.4	20.8
	実績	21.3	21.9	23.4	21.7	21.0

指標：平均在院日数

(単位：日)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	計画	-	-	14.8	16.9	14.0
	実績	14.8	15.4	13.8	14.8	15.6
駒ヶ根	計画	-	-	71.7	70.0	70.0
	実績	69.3	72.7	67.5	64.6	68.3
阿南	計画	-	-	20.9	21.0	17.0
	実績	20.4	19.9	18.3	16.0	16.3
木曾	計画	-	-	16.5	14.1	15.3
	実績	16.5	17.9	15.9	16.0	15.8
こども	計画	-	-	14.1	12.1	13.1
	実績	14.1	12.4	12.8	12.6	12.7

指標：病床利用率（運用病床）

(単位：%)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	計画	80.9	83.8	82.0	74.6	75.0
	実績	81.2	79.9	68.7	70.0	64.4
駒ヶ根	計画	80.0	80.0	80.0	78.1	81.1
	実績	78.5	78.1	72.8	70.5	72.7
阿南	計画	70.0	70.0	70.0	59.6	56.0
	実績	60.4	57.4	54.3	56.0	54.9
木曾	計画	72.6	78.6	74.0	58.2	70.9
	実績	78.1	69.4	61.2	70.3	60.3
こども	計画	73.4	77.5	76.8	71.9	71.1
	実績	78.0	73.1	69.2	70.1	66.3

- ・信州：H26.8～運用病床数226床、H30.12～同215床（一般稼働数264－地域包括49）に基づき算出
- ・駒ヶ根：H23.1～新病棟129床
- ・阿南：H25.6～新病棟85床、H31.1～運用病床数77床、R2.4～運用病床数70床に基づき算出
- ・木曾：H25.4～運用病床数186床、H30.4～同154床、R2.3～151床、R4.6～149床に基づき算出
- ・こども：H25.10～運用病床数180床、R5.2～163床に基づき算出

指標：在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）

（単位：件）

病 院	区 分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信 州	計 画	6,660	7,460	8,260	8,760	8,265
	実 績	7,588	8,829	9,147	8,276	7,864
駒ヶ根	計 画	1,750	1,750	1,920	1,936	2,057
	実 績	1,681	1,982	1,932	1,796	2,282
阿 南	計 画	2,200	2,200	3,108	4,010	4,005
	実 績	2,293	2,104	4,119	4,035	3,632
木 曾	計 画	4,300	4,850	5,000	5,500	5,550
	実 績	4,801	5,433	5,561	5,840	4,618
こども	計 画	—	—	180	100	60
	実 績	—	—	54	44	51

指標：ジェネリック医薬品使用割合（院内）

（単位：％）

病 院	区 分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信 州	計 画	80.0	90.0	90.0	88.0	88.0
	実 績	90.0	91.7	90.5	89.8	91.1
駒ヶ根	計 画	—	—	85.0	85.0	87.0
	実 績	—	—	90.1	95.7	97.3
阿 南	計 画	80.0	85.0	88.0	86.5	86.0
	実 績	86.2	86.7	86.0	86.1	84.7
木 曾	計 画	80.0	85.0	85.0	85.0	90.0
	実 績	82.4	81.9	84.9	91.4	89.7
こども	計 画	85.0	80.0	85.0	90.0	90.0
	実 績	86.5	88.6	89.5	92.1	92.5

指標：紹介率及び逆紹介率

(単位：%)

病院	区分		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	紹介率	計画	—	—	—	34.0	31.0
		実績	28.4	33.7	33.1	28.4	24.5
	逆紹介率	計画	—	—	—	21.0	28.0
		実績	22.6	20.7	23.8	26.8	26.7
信州 参考：全国 自治体病院 協議会方式	紹介率	計画	63.7	59.4	59.7	—	—
		実績	59.6	66.2	60.8	55.7	53.2
	逆紹介率	計画	18.0	16.7	16.5	—	—
		実績	15.4	13.0	17.6	31.4	19.4
駒ヶ根	紹介率	計画	—	—	52.0	52.0	55.0
		実績	—	—	52.5	49.3	38.5
	逆紹介率	計画	—	—	36.0	40.0	40.0
		実績	—	—	48.1	44.6	38.2
阿南	紹介率	計画	21.0	20.0	21.5	23.0	20.0
		実績	20.3	22.5	31.2	34.2	26.2
	逆紹介率	計画	15.0	15.0	13.5	16.0	15.0
		実績	13.0	15.3	17.6	22.4	21.7
木曾	紹介率	計画	21.0	25.0	26.0	22.0	16.0
		実績	27.0	28.1	20.1	17.0	17.0
	逆紹介率	計画	14.0	17.0	17.0	26.0	26.0
		実績	18.1	21.5	28.0	31.0	30.0
こども	紹介率	計画	70.0	77.0	77.0	77.0	71.0
		実績	73.2	75.4	70.5	69.0	74.6
	逆紹介率	計画	90.0	80.0	73.9	73.9	78.0
		実績	73.9	75.1	80.6	78.6	84.4

【紹介率・逆紹介率の算定方式】（全国自治体病院協議会方式）

○ 紹介率 $(\text{紹介初診患者数} + \text{初診救急患者数}) \div \text{初診患者数}$

○ 逆紹介率 $\text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数}$

※こども病院及び信州医療センター（R3から）については、地域医療支援病院承認要件で計算

（地域医療支援病院承認要件：初診患者数から救急搬送された患者、休日夜間に受診した患者、健康診断により疾患が発見され、特に治療の必要を認めて治療を開始した患者を除く）

○ 紹介率 $\text{紹介初診患者数} \div \text{初診患者数}$

○ 逆紹介率 $\text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数}$

指標：分娩件数

(単位：件)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	計画	265	220	250	250	250
	実績	186	230	223	256	253
木曾	計画	-	-	108	100	80
	実績	105	103	72	75	78
こども	計画	-	-	300	300	300
	実績	295	331	292	293	312

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上

(税抜 単位：百万円、%)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
経常収益	計画	23,453	23,720	24,525	24,965	24,778
	実績	23,763	23,863	25,421	25,923	26,007
経常費用	計画	23,432	23,703	24,458	24,963	25,366
	実績	23,346	24,006	24,501	25,140	25,534
経常損益	計画	21	17	67	2	△ 587
	実績	417	△ 143	920	784	473
経常収支比率	計画	100.1	100.1	100.3	100.0	100.0
	実績	101.8	99.4	103.8	103.1	101.8

※係数は、端数をそれぞれ四捨五入しており、内訳と合計が一致しない箇所がある。

指標：医業収支比率

(単位：%)

病院	区分	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
信州	計画	-	-	85.8	83.4	86.3
	実績	88.4	87.0	83.6	83.6	82.6
駒ヶ根	計画	-	-	62.1	63.2	63.9
	実績	66.6	67.8	63.8	59.0	62.9
阿南	計画	-	-	51.2	54.1	54.7
	実績	58.7	55.2	53.2	57.1	57.3
木曾	計画	-	-	77.3	77.6	78.0
	実績	79.8	77.7	75.5	79.7	73.8
こども	計画	-	-	77.1	79.8	78.8
	実績	82.7	80.1	76.1	76.4	75.2

・救急車受入台数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	1,960	1,716	244
駒ヶ根			
阿南	292	223	69
木曾	1,222	1,012	210
こども	387	319	68
計	3,861	3,270	591

・時間外救急患者数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	7,739	5,747	1,992
駒ヶ根	169	226	△ 57
阿南	1,254	1,019	235
木曾	3,398	3,284	114
こども	3,462	3,447	15
計	16,022	13,723	2,299

・手術件数（件）

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	1,697	1,600	97
駒ヶ根			
阿南	88	86	2
木曾	457	686	△ 229
こども	1,583	1,667	△ 84
計	3,825	4,039	△ 214

・手術件数のうち全身麻酔を伴うもの

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信州	707	827	△ 120
駒ヶ根			
阿南	0	0	0
木曾	221	243	△ 22
こども	1,414	1,305	109
計	2,342	2,630	△ 33

令和4年度 新型コロナウイルス感染症に係る実績

・感染者等受入数

(単位：人)

病 院	感染者		疑い患者		計	
	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数	受入人数	延べ人数
信 州	328	3,294	4	81	332	3,375
駒ヶ根	11	89	1	3	12	92
阿 南	48	448	0	0	48	448
木 曾	109	893	1	2	110	895
こども	55	247	0	0	55	247
計	551	4,971	6	86	557	5,057

・検査件数

(単位：件)

病 院	PCR検査	抗原検査 (定性)	抗原検査 (定量)	計
信 州	1,541	5,665	24,419	31,625
駒ヶ根	849	339	0	1,188
阿 南	2,882	1,636	0	4,518
木 曾	3,486	229	2,886	6,601
こども	3,124	0	0	3,124
計	11,882	7,869	27,305	47,056

・ワクチン接種実績

(単位：人)

病院名	実績	前年度実績	対前年度実績
信 州	3,396	5,072	△ 1,676
駒ヶ根	689	1,523	△ 834
阿 南	4,599	8,661	△ 4,062
木 曾	947	2,646	△ 1,699
こども	1,148	1,864	△ 716
計	10,779	19,766	△ 8,987

※阿南病院のみ、ワクチン接種実績人数を外来患者数に含む